

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

1. 新設組織の概要	2
(1) 新設組織の概要	2
(2) 新設組織の特色	2
2. 人材需要の社会的な動向等	5
(1) 新設組織で養成する人材の全国的, 地域的, 社会的動向の分析	5
(2) 既設組織の定員充足の状況	9
3. 学生確保の見通し	11
(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	11
(2) 競合校の状況分析	11
(3) 学生納付金等の金額設定の理由	13
(4) 学生確保に関するアンケート調査	14
4. 新設組織の定員設定の理由	15

1. 新設組織の概要

(1) 新設組織の概要

新設組織			入学定員	収容定員	所在地
医学系研究科	博士課程	医科学専攻	120	480	兵庫県神戸市中央区 楠町 7 丁目 5-1
	博士課程 前期課程	先進生命医科学系専攻	119	238	
	博士課程 後期課程	医療創成工学専攻	8	24	兵庫県神戸市須磨区 友が丘 7 丁目 10-2
		健康科学専攻	17	51	
		未来社会医学専攻	5	15	

(2) 新設組織の特色

現代社会は、新型コロナウイルス感染症の蔓延や温暖化による気候変動、さらに生成系 AI 等の技術革新でこれまでに経験したことのないスピードで不可逆的に変化しており、既存の価値観や知識だけでは新たな課題への対応が困難となっている。

このような社会は「VUCA の時代」と呼ばれており、課題の複雑化やステークホルダーの多様化で意思決定の困難さが増大し、情報の増大と知識の細分化・専門化により、単独あるいは少数の専門知による課題解決がますます困難となっている。

一方、大学の重要な使命である研究や科学技術開発の評価の尺度が、その進歩の度合いよりも持続可能性や Well-being（一人ひとりの多様な幸せ）の達成に移行しつつある。

このような大きな変革の時代に我が国の科学技術やイノベーションが、VUCA の時代の社会課題を解決し、世界と伍していくためには、大学が専門知の深化・発展の場にとどまることなく、あらゆる分野の知見を総合的に活用し、社会の諸課題への的確な対応を図ること、すなわち「総合知」を生み出す場となり、強力に推進することが不可欠である。

医学系研究科の改組は、既存の大学院医学研究科と大学院保健学研究科を統合・改組し、両研究科の強みを融合させるとともに、総合知を推進するために必要な、アジャイル

(agile: 敏捷・機敏) な研究・教育体制を構築するために実施し、VUCA の時代の社会要求に応えるものである。

本改組に伴い、新設する専攻（先進生命医科学系専攻、未来社会医学専攻、健康科学専攻）の特色は次のとおりである。

<先進生命医科学系専攻>

先進生命医科学系専攻では、「総合知」を基盤に、次世代の保健医療分野における課題解決に取り組む人材の育成を目指している。本専攻における保健医療とは、健康の維持や増進、疾病の予防、診断、治療、これらを支える機器や薬剤、システム、地域や国、さらには国際的な活動を含む広い概念を位置付けており、これらの分野における課題解決には多領域の知見を統合する柔軟なアプローチが必要不可欠である。こうした保健医療にかかる社会課

題の解決とこれらを通じた新たな価値の創出は、臨床現場や社会に近い応用的研究だけでなく、生命科学や医学の根源的真理を探究する基礎研究も含む。これらを包括する視点から、以下のような人材の育成を目指す。

①専門知識の深化と総合知による課題解決力を備えた人材

本専攻では、生命医学に関する高度な専門知識を深めつつも、これに限らず異分野の知見を融合させる「総合知」を活用し、保健医療分野における複雑な課題解決に対応できる人材を育成する。これにより、学際的なアプローチで新しい価値を創出し、持続可能な社会の実現に貢献することが期待される。

②社会実装に向けた強い探求心と創造性を持つ人材

本専攻では、単に学術的な研究に留まらず、実社会での実装を視野に入れた実践的な課題解決能力を重視する。カリキュラムにはシステム思考やデザイン思考、バックキャストिंगといった社会科学で多用される手法も組み込まれており、社会的な要請に応じて柔軟かつ創造的に対応できる人材を養成する。

③多様な専門家と協働できるリーダーシップと倫理観を持つ人材

本専攻では、医療現場や産業界、行政等の多様な分野の専門家と連携し、地域社会や国際社会での実践的な協働を通じて社会課題に取り組む力を重視する。また、生命倫理や人間の尊厳に対する理解を基盤とし、保健医療分野におけるリーダーシップを発揮して、新たな時代の保健医療の姿を創り出すことのできる人材の育成を目指す。

④将来の予測困難な課題に対応する柔軟な思考力を備えた人材

VUCA の時代に対応するためには、急速な社会変化に適応し得る柔軟な思考力や判断力を持つ人材が求められる。本専攻は、現状の分析を基に未来を見据え、課題を主体的に設定して解決する能力を育む教育を行い、持続可能性と Well-being の実現に貢献する人材を育成する。

このように、本専攻では複数分野にまたがるカリキュラムと実践的な PBL (Project Based Learning) を通じて、保健医療分野におけるイノベーションを牽引する次世代の専門家を育成することが特色である。

<健康科学専攻>

健康科学専攻では、現代の保健医療分野が直面する複雑な課題に対応できる高度専門職を養成するために、看護学、病態解析学、リハビリテーション科学の 3 つの専門領域を基盤とし、社会的ニーズを踏まえ、以下のような人材像の育成を目指す。

①高度な専門知識と分析力を備えた自立した医療専門職

本専攻では、看護学、病態解析学、リハビリテーション科学の分野で深い専門知識と研究能力を有し、地域医療や社会保健において指導的役割を担う人材を育成する。学生は、患者ケアや疾病のメカニズム解析、機能回復支援において高度な分析力と問題解決能力を発揮し、複雑な医療課題に対して自立して対応できる力を養う。

②学際的な総合知による課題解決力を持つ人材

多様な専門領域が連携する医療チームにおいて、複数分野の知識を融合させる「総合知」の活用が求められる。健康科学専攻では、各専門領域を横断的に学び、個別の知識を超えて多面的に課題を捉え、解決策を創出する力を備えた人材を育成する。学生は、異なる専門家と連携して医療保健課題に取り組むスキルを身につけ、地域社会や国際医療の現場で即応できる実践力を高める。

③科学的探求と創造力を備えた研究者・教育者

本専攻では、医療保健分野における新たな知見を創出し、未来の医療と健康科学の発展に寄与する研究者・教育者の育成も重要視している。学生には、科学的探求心と創造力を発揮し、独自の研究課題を設定し、それに取り組む力を身につけることを求める。さらに、研究成果を通じて次世代の医療人材を育成し、教育者としても貢献できる能力を備えた人材を育成する。

このように、本専攻は、地域社会と国際社会の両面で貢献する人材を養成することを目的とし、複雑化する保健医療課題に対応するための専門知識、実践力、創造性を持つ人材の育成を目指しているのが特色である。

<未来社会医学専攻>

未来社会医学専攻は、急速に変化する現代社会において、公衆衛生分野で活躍する次世代のリーダーを育成することを目標とし、次の3つの特性を備えた人材の育成を目指している。

①公衆衛生課題に対する総合的な専門知識を備えたリーダー

本専攻が目指す一つ目の人材像は、データ駆動型のアプローチを基にした公衆衛生分野のリーダーである。現代社会における公衆衛生課題は、感染症の流行、環境問題、生活習慣病の増加、少子高齢化等、多岐にわたっている。これらの複雑な課題を解決するためには、地域特性や社会的背景を踏まえたうえで、健康政策の立案や医療資源の効率的配分を進める力が必要である。本専攻では、受講生が疫学や生物統計学、環境保健学、医療経済学等の専門知識を修得し、実際のデータに基づく政策判断力を高めるための教育プログラムを提供する。また、リーダーシップやマネジメント能力を培うため、実践的な演習やシミュレーションも組み込むことで、指導的な立場から保健・医療政策を推進できる人材を養成する。こうした総合的な知識と実践力を備えた人材は、地方自治体や国際的な公衆衛生機関等で活躍

し、地域社会及び国際社会の健康課題の解決に貢献することが期待される。

②国際的な視野と協働力を有する専門家

二つ目の人材像は、国際的な視野を持ち、多様な文化や国々の中で公衆衛生課題に取り組める専門家である。グローバル化が進展する中、感染症や環境汚染等の公衆衛生問題は国境を越えて広がり、世界的な視点での取り組みが不可欠となっている。そこで本専攻では、学生が国際的な公衆衛生の現状や課題を理解し、他国の専門家と協働して課題解決に取り組むための能力を育成するため、国際保健学やグローバルヘルス分野の教育を強化する。また、海外の研究機関や国際保健機関との連携プログラムを通じ、国際的な公衆衛生課題に対して現地での経験を積む機会も提供する。これにより、学生は異なる文化的背景を尊重しつつ、協調して問題解決に取り組む姿勢を身に付け、グローバルな公衆衛生課題に対応できる実践的なスキルを修得する。国際機関や非政府組織（NGO）での活躍を視野に入れ、日本国内外でのプレゼンスを発揮できる人材の輩出を目指す

③変動の時代に対応できる柔軟な問題解決能力を持つ人材

三つ目の人材像は、いわゆる「VUCA の時代」と呼ばれる現代の不確実性と複雑性の中で、新たな公衆衛生の在り方を創造する力を持つ専門家である。変化の激しい社会においては、従来の固定観念にとらわれない柔軟な思考と創造性が重要である。本専攻では、システム思考やデザイン思考といった課題解決のためのフレームワークを取り入れ、多領域の知識を統合した包括的な分析力と問題解決力を養うことを目指す。これにより、学生は医療、環境、経済、社会福祉等多角的な視点から公衆衛生課題にアプローチし、エビデンスに基づく実践的な解決策を提案するスキルを磨く。また、学生が学んだ知識を現場で応用できるよう、現場実習やPBL(Project Based Learning)を取り入れた学習機会も充実させ、社会実装力を強化する。こうして養成された人材は、自治体や医療機関、企業と連携し、社会の変動に即応しうる柔軟性と課題解決力を発揮するリーダーとして貢献することが期待される。

このように、本専攻は、公衆衛生分野における次世代リーダーを育成し、国内外の多様な課題に対して総合的な解決策を提供するための研究・教育体制を強化しているのが特色である。

2. 人材需要の社会的な動向等

（1）新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

現代社会は世界規模で、新型コロナウイルス感染症や気候変動、急速に進展する技術革新といった未曾有の変化に直面しており、従来の価値観や知識だけでは解決できない複雑な課題が次々と発生している。こうした課題解決のためには、保健医療分野においても、これまでにない柔軟かつ総合的なアプローチが求められるとともに、国際社会におけるグローバルスタンダードに基づいた保健医療態勢の構築が求められている。他方、日本国内に目を向ければ、人口減少と高齢化の進展に伴い、保健医療の現場で新たな課題が次々と浮上してい

る。社会構造や疾病構造の変化，生活習慣や価値観の多様化により，健康増進，疾病予防，障害者支援，地域ケアシステムの構築等，保健医療分野における解決が急がれる重要なテーマも増えている。

医学系研究科は，このような複雑かつ不確実な社会環境においても，柔軟に積極的かつ果敢に対応できる保健医療専門人材を養成することを目標としている。

新設する各専攻が必要とされる背景は以下のとおりである。

＜先進生命医科学系専攻＞

先進生命医科学系専攻が今，社会的に必要とされる背景には，現代社会における急速な変化と，それに伴う複雑化した課題の出現が深く関係している。

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は，医療体制の脆弱性を浮き彫りにするとともに，公衆衛生分野におけるグローバルな対応能力の重要性を再認識させた。加えて，気候変動による健康リスクや，高齢化社会の進展による医療資源の逼迫，生成系 AI 等の技術革新による社会の構造変化も，従来の方法では対応できない新しい課題を次々と生み出している。このような状況の中，これまで以上に多様な視点と専門知識を組み合わせる問題解決に取り組める人材が求められているのである。

特に，医療や生命科学分野では，専門知識の高度化と細分化が進む一方で，解決すべき課題の複雑さや多様性が増しているため，複数の専門分野を統合し，新たなアプローチを提案できる人材の需要が高まっている。医療機器やバイオテクノロジーの進展に伴い，医工学や生命科学に精通しながらも，システム思考やデザイン思考を駆使して問題を包括的に捉え，解決策を見出すことができる人材は，今後の医療と科学技術の進展において不可欠な存在となる。例えば，令和 6 年 6 月に閣議決定された「統合イノベーション戦略 2024」では，技術革新と社会課題の解決を統合した政策が重視されており，生命科学分野における技術革新の推進の必要性が明記されている。そこには，新設組織が目指す，医工学やバイオテクノロジーの分野における人材育成の重要性や総合知を活用した価値創造が謳われており，複雑な社会課題に対応するための新しいアプローチを推進する方針が記されている。

また，現代の社会課題は，単なる技術革新だけではなく，持続可能性や Well-being の実現に貢献することが求められるため，多様なステークホルダーと協力し，社会全体の利益を考えた意思決定ができる人材が重要視されている。OECD が加盟国の医療分野における最新の動向や課題を分析して毎年公表している Health at a Glance 2023 レポート では，特に高齢化社会に伴う医療資源の不足や，健康格差問題に対する政策的対応が強調されている。このように，先進国に共通した健康格差や医療アクセスの不平等といった課題に対しては，医療の専門知識だけでなく，社会的な視点からもアプローチできる人材の必要性が求められている。

こうした背景から今後，国内外で生命科学，医療，工学，公衆衛生学，保健学といった複数の分野に精通し，総合的な視野で問題を捉え，迅速かつ的確に対応できる人材の需要がますます高まることが予想される。そのため，異なる分野の知識を融合し，社会的な課題解決に貢献できる教育プログラムを提供する本専攻の設置は，時代の要請に応えるものであり，

今後の社会的ニーズに適応した人材を輩出するための重要な取組と言える。

＜健康科学専攻＞

現代社会では、人口減少と高齢化の進行、医療技術の急速な進歩、そして人々の価値観やライフスタイルの多様化が、保健医療分野に様々な新しい課題をもたらしている。これに伴い、健康増進や疾病予防、リハビリテーション、地域ケア等、従来の保健医療の枠組みを超えた総合的な対応が求められるようになってきている。このような急激な変化に対応できる専門性と実践力を兼ね備えた人材の需要が保健医療の現場では急速に拡大しているものの、供給する側の担い手不足が度々指摘されている。例えば、令和4年版厚生労働白書では、保健医療人材の確保の重要性が巻頭特集となった。その中で、限りある医療資源の有効な配分と利用については様々な施策と実例が紹介されていたが、保健医療現場ではこうした施策やプロジェクトを、総合的な見地から企画・立案・実行できる幅広い知見を有するリーダーが希求されており、それがこの度の健康科学専攻の設置を必要とする大きな理由となっている。

まず、保健医療現場では、慢性疾患の増加と病態の複雑化、リハビリテーションや介護ニーズの高まりが顕著である。さらに高齢者人口の増加に伴い、健康の維持・増進と障害の予防やケアにおける包括的なアプローチが必要とされている。このような状況では、看護学領域、病態解析学領域、リハビリテーション科学領域といったそれぞれの専門知識を持ちながら、それらを総合的に結びつける能力がより一層求められる。これにより、単なる治療だけでなく、予防や健康の維持、さらには地域における生活支援までを包括する視点を持った人材が重要となる。

さらに、医療技術の発展やデジタル技術の進化により、診断・治療技術の高度化は着実に進行している。これらに対応するために、検査技術や病態解析に精通した専門家が今後ますます求められることが想定される。特に、データ分析やAIを活用した新たな診断手法の開発や活用が進む中で、これらの技術を現場で活用し、患者ケアに反映できるリーダーシップを持った専門家が必要となっている。

また、ローカルとグローバルの視点の双方がそれぞれ必要とされる今の時代においては、地域社会に根差した健康支援を行う人材を確保するとともに、国際的な健康課題にも取り組む人材の育成が急務となっており、地域の特性を理解しながら、地域住民の健康維持やケアシステムの構築に寄与する実践的な能力を持つ人材が求められる。一方で、国際社会においては異文化理解を基盤にした保健医療活動が重要視されている。この点については令和6年6月に閣議決定された「統合イノベーション戦略2024」でも強調されており、各種施策と連動して裾野の広い保健医療分野での国際貢献を目指すとともに、我が国の保健医療関連産業の国際展開にも寄与することが期待されている。

さらに、SDGsを達成するためにも、保健医療と福祉の両面で持続可能なシステムの構築が求められている。健康と福祉を推進し、Well-beingの向上を目指す観点から、地域社会や国際社会のそれぞれにおいて幅広い視野を持ちながら実践できる人材が不可欠であって、これらのニーズに応え、持続可能な保健医療システムを支える専門家の育成が強く求められているのである。

このような社会的背景を踏まえると、3つの基幹領域（看護学領域、病態解析学領域、リハビリテーション科学領域）を中心とした本専攻の設置は、現代社会が直面する課題に対応するための必要不可欠な取組であるといえる。本専攻には、専門知識を深めつつ、それらを総合的に活用し、地域社会や国際社会において保健医療分野で活躍できるリーダーを育成することを通じて、現代の保健医療分野における急速な変化に柔軟に対応し、社会の幸福と福祉の向上に貢献することが期待されている。

＜未来社会医学専攻＞

現代社会において、公衆衛生や保健・医療分野で求められる人材の備えるべき資質は大きく変化してきている。新型コロナウイルス感染症による世界的なパンデミックは、保健・医療分野におけるグローバルな課題解決の必要性を浮き彫りにし、これを契機に国境を超えた協力関係や情報共有態勢の構築、迅速な意思決定がより強く求められる状況となった。また、気候変動に代表される地球レベルでの環境の変化は健康リスクを増大させており、社会全体の健康を保つためには、これまでにない予防医学や公衆衛生における新たなアプローチが不可欠となっている。

さらに、生成系 AI 等の技術革新がもたらす新たな人間と社会への影響や、健康格差の拡大、高齢化社会に伴う医療・介護の需要増大といった複雑な課題に対応するためには、公衆衛生やその他の保健・医療の分野において、従来の枠組みを超えた新たなリーダーシップが求められている。こうした諸課題の出現は、専門性の高い公衆衛生学の知識を持つと同時に、異なる分野の知識や技術を総合的に活用できる人材が必要とされることを示している。

殊に日本国内においては、人口減少と高齢化に伴う医療・福祉制度の持続可能性が大きな社会問題となっており、効果的な健康政策の策定や、医療資源の効率的な配分を行うための公衆衛生学分野のスペシャリストへの需要の高まりが想定される。例えば、令和6年版厚生労働白書では、医療人材の確保をはじめ、限りある医療資源の有効な配分と利用について、様々な施策が紹介されており、そのようなプロジェクトをマネジメントできる幅広い知見を有するリーダーが希求されている。

また、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC：全ての人々が基礎的な保健医療サービスを、必要なときに、負担可能な費用で享受できる状態）の実現状況を示した WHO・世界銀行の報告書によると、2015 年以降 UHC への進展が停滞しており、SDGs が掲げる目標を 2030 年までに達成する見込みは低いという現状に対する見解が示される一方で、こうした状況の改善のためには国内外で頻発するパンデミックや自然災害に対応するための危機管理能力や国際的な公衆衛生問題に対するグローバルな視点を有する公衆衛生分野の人材育成の強化が必要であることが指摘されている。この点は、例えば、「統合イノベーション戦略 2024」でも強調されており、アジア健康構想・アフリカ健康構想の下で首相官邸が進める各種施策とも連動して、裾野の広い健康・医療分野での国際貢献を目指すとともに、我が国の健康医療関連産業の国際展開にも寄与することが期待されている。

このように、公衆衛生をはじめとする保健・医療分野では、専門知識だけでなく、広範な分野に精通し、現代の変化する社会に対応できる人材の育成が、今まさに必要とされてお

り，未来社会医学専攻の設置は，時代の要請に応えるとともに，今後の社会的ニーズに適応した人材を輩出するための重要な取組と言える。

（２）既設組織の定員充足の状況

医学系研究科の各専攻に移行する既設組織の過去５年間（令和２年度～令和６年度）の入学志願状況等は以下のとおりである。

<医科学専攻>

既設組織の医学研究科医科学専攻は，過去５年間定員を大きく上回る志願者数を確保するとともに，入学定員充足率も１を超えている。令和６年度から入学定員が１２０となったが，過去５年間の志願者数を踏まえると，今後も入学定員は充足できる見込みである。

既設組織	区分	R2	R3	R4	R5	R6
医学研究科医科学専攻（博士課程）	入学定員	100	100	100	100	120
	志願者数	151	152	140	130	142
	入学者数	107	109	108	109	125
	定員充足率	1.07	1.09	1.08	1.09	1.04

<先進生命医科学系専攻>

先進生命医科学系専攻に移行する既設組織の医学研究科バイオメディカルサイエンス専攻，医療創成工学専攻，保健学研究科保健学専攻（３専攻の合計数）は，入学定員充足率は年度によってばらつきはあるが，令和３年度以降，入学定員を少し下回る状況が継続している。ただし，後述する学生確保に向けた取組を行うとともに，各専攻（領域）において今後の志願者数の増加要因があることから，入学定員は充足できる見込みである。

既設組織	区分	R2	R3	R4	R5	R6
医学研究科バイオメディカルサイエンス専攻（修士課程）	入学定員	89	89	89	104	119
	志願者数	152	149	139	152	154
医学研究科医療創成工学専攻（博士課程前期課程）	入学者数	91	80	86	102	109
保健学研究科保健学専攻（博士課程前期課程）	定員充足率	1.02	0.90	0.97	0.98	0.92

※入学定員・志願者数・入学者数は３専攻の合計

※医療創成工学専攻は令和５年度設置，保健学専攻は令和６年度から１５名入学定員増員

<医療創成工学専攻>

既設組織の医学研究科医療創成工学専攻（令和５年度設置）は，過去２年間いずれも定員を上回る志願者を確保するとともに，入学定員充足率も１を超えており，入学定員は充足できる見込みである。

既設組織	区分	R2	R3	R4	R5	R6
医学研究科医療創成工学専攻（博士課程後期課程）	入学定員				8	8
	志願者数				12	10
	入学者数				12	10
	定員充足率				1.50	1.25

＜健康科学専攻＞

健康科学専攻に移行する既設組織の保健学研究科保健学専攻は、入学定員充足率は年度によってばらつきがあるが、入学定員を少し下回る状況が継続している。また、今回の改組で保健学専攻のパブリックヘルス領域の一部が未来社会医学専攻に移行するため、その分の学生が減となることも踏まえて、入学定員の見直しを行った。過去5年間の入学志願状況等（パブリックヘルス領域から未来社会医学専攻に移行する分を減じた人数）において、入学者数の平均が17.6名だったことを踏まえて、入学定員を17名とする計画であるが、在学生の関心の高まりと、後述する学生確保に向けた取組を通して、入学定員は充足できる見込みである。

既設組織	区分	R2	R3	R4	R5	R6	平均
保健学研究科	入学定員	25	25	25	25	25	25
保健学専攻	志願者数	30(7)	26(5)	26(3)	25(3)	28(4)	27 (4.4)
(博士課程後期	入学者数	20(7)	21(5)	23(1)	20(3)	24(4)	21.6(4)
課程)	定員充足率	0.8	0.84	0.92	0.8	0.96	0.86

※括弧内はパブリックヘルス領域の人数（内数）

＜未来社会医学専攻＞

既設組織の保健学研究科保健学専攻パブリックヘルス領域は、新研究科改組に伴い未来社会医学専攻と健康科学専攻に分かれて移行する。既設組織の保健学研究科保健学専攻パブリックヘルス領域から未来社会医学専攻へ移行する教員が指導教員であった後期課程大学院生は、年度により多少のばらつきはあるものの、平均すると志願者数は年4.4名程度、入学者数は年4名程度となっている。また、保健学研究科及び医学研究科の修士課程以上に在籍している学生を対象に実施したアンケートでは、「入学を希望する。」と回答した5名のうち1名が医学研究科の学生であったことに加え、「前向きに考える」「関心がある」と回答した53名のうち27名が医学研究科の学生であったことから、医学研究科のバイオメディカルサイエンス専攻の学生からの進学も見込めることや、前期課程である先進生命医科学系専攻にて修士（公衆衛生学）を取得できるようになるため、令和10年4月からは未来社会医学専攻（後期課程）への進学者は増加すると予測され、入学定員は充足できる見込みである。

既設組織	区分	R2	R3	R4	R5	R6	平均
保健学研究科保健学専攻 パブリックヘルス領域 (博士課程後期課程)	志願者数	7	5	3	3	4	4.4
	入学者数	7	5	1	3	4	4.0

※専攻の中の一領域のため定員設定なし

※志願者数及び入学者数は、パブリックヘルス領域から未来社会医学専攻へ移行する教員
分のみ

3. 学生確保の見通し

(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

医学研究科においては、各専攻でオンラインを活用した入学説明会を実施するとともに、保健学研究科においては、オープンキャンパスを実施し、博士課程前期課程の受験希望者に向けた説明の機会を設けている。医学系研究科においても同様の取組を継続するとともに、現代の社会課題を解決するには、専門知識の深化と総合知による課題解決力を備えた人材が求められることから、異なる領域が融合する教育体制の意義を丁寧に説明し、受験意欲の喚起を促す。

また、医学系研究科のホームページを開設し、専攻の教育内容や研究成果の紹介等、積極的な情報発信を行うとともに、パンフレット等各種広報資料の配布や学部生・大学院生対象のオリエンテーション等を通じて積極的な広報活動を展開し、受験生の確保に努める。

(2) 競合校の状況分析

新設する各専攻の競合校に関する分析は以下のとおりである。

<先進生命医科学系専攻>

医学分野及び保健学分野の専攻（博士課程前期課程）で構成される大学院を擁する国立大学は、近隣では京都大学及び大阪大学である。

過去5年間の入学志願状況等は以下に示すとおりである。令和2年度を除き、いずれの年度も入学定員を大きく上回る志願者数を確保するとともに、入学定員充足率も100%を超えていることから、本専攻における定員充足も問題ないものと考えられる。

京都大学大学院医学研究科

専攻名	区分	R2	R3	R4	R5	R6
医科学専攻	入学定員	20	20	20	20	20
	志願者数	52	50	45	67	55
	入学者数	28	27	28	24	28
	定員充足率	1.4	1.35	1.4	1.2	1.4
人間健康 科学系専攻	入学定員	49	70	70	70	70
	志願者数	96	120	105	92	94

	入学者数	66	78	77	70	76
	定員充足率	1.35	1.11	1.1	1.0	1.09

大阪大学大学院医学系研究科

専攻名	区分	R2	R3	R4	R5	R6
医科学専攻	入学定員	20	20	20	20	20
	志願者数	69	47	68	73	57
	入学者数	25	29	23	24	21
	定員充足率	1.25	1.45	1.15	1.2	1.05
保健学専攻	入学定員	81	81	81	81	81
	志願者数	133	135	130	135	150
	入学者数	93	89	93	103	100
	定員充足率	1.15	1.10	1.15	1.27	1.23

また、医工学分野の専攻（博士課程前期課程）を擁する国立大学は、東北大学及び信州大学である。

過去5年間の入学志願状況等は以下に示すとおりである。いずれの年度も入学定員を大きく上回る志願者数を確保するとともに、入学定員充足率も100%を超えていることから、本専攻の医療創成工学専攻領域も問題なく志願者を確保できるものと考えられる。

東北大学大学院医工学研究科

専攻名	区分	R2	R3	R4	R5	R6
医工学専攻	入学定員	39	39	39	39	39
	志願者数	58	56	51	50	61
	入学者数	41	43	39	38	45
	定員充足率	1.05	1.10	1.0	0.97	1.15

信州大学大学院総合理工学研究科

専攻名	区分	R2	R3	R4	R5	R6
生命医工学専攻	入学定員	40	40	40	40	40
	志願者数	47	56	53	70	56
	入学者数	40	49	40	58	49
	定員充足率	1.0	1.23	1.0	1.45	1.23

<健康科学専攻>

健康科学専攻と同様の保健学分野の専攻（博士課程後期課程）を擁する国立大学は、近隣

では大阪大学である。

大阪大学の過去 5 年間の入学志願状況等は以下に示すとおりであり、いずれの年度も入学定員を大きく上回る志願者数を確保するとともに、入学定員充足率も 100%を超えていることから、関西圏において保健学分野の博士課程後期課程進学への一定のニーズはありと推察される。

そのため、本専攻においても既述の学生確保に向けた取組を積極的に行うことで、学生確保は可能であると考えられる。

大阪大学大学院医学系研究科

専攻名	区分	R2	R3	R4	R5	R6
保健学専攻	入学定員	23	23	23	23	23
	志願者数	47	38	41	44	49
	入学者数	30	26	23	29	29
	定員充足率	1.30	1.13	1.0	1.26	1.26

<未来社会医学専攻>

未来社会医学専攻と同様の公衆衛生大学院を設置する国立大学は東京大学、京都大学、九州大学の 3 校であり、うち、博士課程後期課程を有するのは京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻のみである。

過去 5 年間の入学志願状況等は以下に示すとおりである。令和 2 年度を除き、いずれの年度も入学定員を大きく上回る志願者数を確保するとともに、入学定員充足率も 100%を超えていることから、本専攻における定員充足も問題ないものと考えられる。

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻

専攻名	区分	R2	R3	R4	R5	R6
社会医学系専攻	入学定員	12	12	12	12	12
	志願者数	12	19	16	19	23
	入学者数	7	14	13	14	18
	定員充足率	0.58	1.17	1.08	1.17	1.5

(3) 学生納付金等の金額設定の理由

授業料、入学料及び検定料は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成十六年文部科学省令第十六号）」に定められた標準額とする。

授業料の年額	535,800 円
入学料	282,000 円
検定料	30,000 円

（４）学生確保に関するアンケート調査

新設する各専攻について、以下のとおり、学生確保に関するアンケート調査を実施した。

＜先進生命医科学系専攻＞

先進生命医科学系専攻の修了生の採用意向を確認するため、医療・福祉関係の企業や大学・研究機関等へのアンケートを実施し、500 機関から回答を得た。【資料 1】

その結果、「先進生命医科学系専攻を修了した学生を採用したいと思いますか」という質問に対し、「非常に思う」「思う」と回答した機関が全体の 39%であった。また、それらの機関に「先進生命医科学系専攻を修了した学生を、単年度で採用可能と思われる採用人数は何人ですか」という質問に対し、回答のあった人数を合計すると 407 名となり、本専攻修了生の社会からの人材需要は十分にあることが確認できた。

＜健康科学専攻＞

健康科学専攻の修了生の採用意向を確認するため、医療・福祉関係の企業や大学・研究機関等へのアンケートを実施し、100 機関から回答を得た。【資料 2】

その結果、「健康科学専攻を修了した学生を採用したいと思いますか」という質問に対し、「非常に思う」「思う」と回答した機関が全体の 39%であった。また、それらの機関に「健康科学専攻を修了した学生を、単年度で採用可能と思われる採用人数は何人ですか」という質問に対し、回答のあった人数を合計すると 76 名となり、本専攻修了生の社会からの人材需要は十分にあることが確認できた。

＜未来社会医学専攻＞

未来社会医学専攻の受験生からのニーズを把握するため、現在、大学院医学研究科修士課程及び保健学研究科博士課程前期課程に在籍する学生を対象にアンケートを実施し、109 名から回答を得た。【資料 3】

入学希望の有無を尋ねる「未来社会医学専攻への入学を希望しますか」という質問項目に対し、「入学を希望する」「前向きに考える」と回答した学生が全体の 22%で、「関心がある」と回答した人を含めると 53%の学生が本専攻への入学・進学に前向きな意向を持っていることが分かった。

また、本専攻の修了生の採用意向を確認するため、医療・福祉関係の企業や大学・研究機関等へのアンケートを実施し、100 機関から回答を得た。【資料 2】

その結果、「未来社会医学専攻を修了した学生を採用したいと思いますか」という質問に対し、「非常に思う」「思う」と回答した機関が全体の 38%であった。また、それらの機関に「未来社会医学専攻を修了した学生を、単年度で採用可能と思われる採用人数は何人ですか」という質問に対し、回答のあった人数を合計すると 69 名となり、本専攻修了生の社会からの人材需要は十分にあることが確認できた。

4. 新設組織の定員設定の理由

入学定員については、既述の競合校の入学定員及び入学定員充足率、既設組織の過去5年間の志願者数・入学者数のデータ、学生確保に関するアンケート調査結果を基に十分に学生を確保できる定員数を設定している。各専攻の定員設定の理由は以下のとおりである。

なお、既設組織の保健学研究科保健学専攻（博士課程後期課程）の入学定員25名については、健康科学専攻へ17名、未来社会医学専攻へ5名を移行する。これにより、改組後の入学定員は、改組前の定員から3名減じることとする。これは、保健学研究科の大学院生の進路の希望が確実に多様化している学生側のニーズと、企業や行政機関等が医療系のバックグラウンドを持つ学位取得者を求める社会的ニーズの両者に対応するためである。すなわち、保健学研究科の博士課程前期課程（2年後は先進生命医科学系専攻）から健康科学専攻博士課程後期課程という進路のみならず、医療創成工学専攻博士課程後期課程あるいは医科学専攻（博士課程）などへの多様な進学先の拡大を見込んで、未来社会医学専攻博士課程後期課程及び健康科学専攻博士課程後期課程の改組後の入学定員を減じたものである。

<医科学専攻>

設定した120名という入学定員については、既設組織（医学研究科医科学専攻（博士課程）120名）と同一の設定であり、過去5年間の入学志願状況等を鑑みても、入学定員は問題なく充足できるものと考えられる。

<先進生命医科学系専攻>

設定した119名という入学定員については、先進生命医科学系専攻に移行する既設組織（医学研究科バイオメディカルサイエンス専攻（修士課程）25名、医学研究科医療創成工学専攻（博士課程前期課程）15名、保健学研究科保健学専攻（博士課程前期課程）79名）と同一の設定である。過去5年間（医学研究科医療創成工学専攻については2年間）の入学志願状況等を鑑みると、平均定員充足率はバイオメディカルサイエンス専攻が0.72、保健学専攻が1.03、医療創成工学専攻が1.1、全体で0.96であるが、次に挙げる増加要因があることから、入学定員は充足できるものと考えられる。

- ・バイオメディカルサイエンス領域においては、過去6年間（令和2年度～令和7年度）に多数の教授の定年退職が重なり、学生募集を停止していた分野が複数あったが、これらはいずれも多くを学生を擁していた（この期間に募集停止になった分野は令和元年度～令和6年度計35名の入学者）。このことが入学定員未充足の一因であるが、新たな教授が令和5年度に2名、令和6年度に3名着任したことにより、令和7年度入試では2つの分野の募集を開始し、令和8年度入試では3つの分野が募集を開始予定である。さらに今後も複数の教授が着任予定（2ポスト選考中、1ポスト選考開始予定）であり、新任教授の分野に対しては多くの学生が集まる傾向がある（令和4年度に新設された分野には初年度6名、次年度7名が受験）ことから、今後、更なる志願者数の増加が見込まれる。
- ・医療創成工学領域においては、令和5年度に設置した医療創成工学専攻の研究分野とし

ての認知度が向上してきたことに加え、令和7年度設置予定の医療創成工学科の広報活動の相乗効果の結果、博士課程前期課程の志願者数が年々増加し（令和5年度の17名から令和7年度は37名と2倍以上の増加）、今後も志願者が増える見込みである。また、医療機器開発が実績を積み重なることにより、学部学生のみならず、社会人大学院生の増加も見込まれる。将来的には、令和11年度以降、医療創成工学科の卒業生（定員25名、編入学定員5名）の一部が博士課程前期課程への進学を希望すると考えられるため、更なる志願者数の増加が見込まれる。

- ・健康科学領域においては、令和4年度補正予算「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」に採択後、継続実施しているリカレント教育プログラムを令和8年4月から新たに学位プログラム化する予定であり、当該プログラムを希望する志願者が見込まれる。なお、大学院学位プログラム化までの助走期間である令和6年度に実施中のリカレント教育プログラムには、15名の受講生が参加している。
- ・未来社会医学領域においては、2名の新規教員ポストを設け、新たな教育研究分野を新設することから、当該新設教育研究分野への志願者増加が期待できる。現在選考中の新規採用教員については、前任校で指導する学生も本専攻に移籍する予定である。当該教員は現職で11名の大学院生の研究指導を行っており、研究経費も基盤研究（B）、厚生労働科研を獲得するなど、公衆衛生領域における若手女性リーダーとして名高く、今後本専攻への入学者数の増加が期待できる。

＜医療創成工学専攻＞

設定した8名という入学定員については、既設組織（医学研究科医療創成工学専攻（博士課程後期課程））と同一の設定であり、過去2年間の入学志願状況等を鑑みても、入学定員は問題なく充足できるものと考えられる。

＜健康科学専攻＞

既設組織である保健学専攻パブリックヘルス領域の一部が未来社会医学専攻に移行するため、その分の学生が減少することを踏まえて入学定員の見直しを行った。設定した17名という入学定員については、過去5年間の入学志願状況等（パブリックヘルス領域から未来社会医学専攻に移行する分を減じた人数）において、入学者数の平均が17.6名であることを踏まえて設定したものである。健康科学専攻博士課程後期課程のみを見ると定員は減員しているが、これは医学系研究科の博士課程後期課程全体において進路選択の幅を広げることによって、学生および社会からの多様なニーズに応えられるように配慮したものである。なお、学生確保に関するアンケート結果において、企業等の採用意向は定員を上回る数を確認できており、既述の学生確保に向けた取組を積極的に行うことにより、入学定員は問題なく充足できるものと考えられる。

＜未来社会医学専攻＞

既設組織の保健学研究科保健学専攻パブリックヘルス領域は、新研究科改組に伴い未来

社会医学専攻と健康科学専攻に分かれて移行する。既設組織の保健学研究科保健学専攻パブリックヘルス領域から未来社会医学専攻へ移行する教員が指導教員であった後期課程大学院生は、平均すると志願者数は年 4.4 名程度、入学者数は年 4 名程度となっている。また、保健学研究科及び医学研究科の修士課程以上に在籍している学生を対象に実施したアンケートでは、「入学を希望する。」と回答した 5 名のうち 1 名が医学研究科の学生であったことに加え、「前向きに考える」「関心がある」と回答した 53 名のうち 27 名が医学研究科の学生であったことから、医学研究科のバイオメディカルサイエンス専攻からの進学も見込める。さらに、この度の改組により前期課程である先進生命医科学系専攻にて修士（公衆衛生）を取得できるようになるため、未来社会医学専攻（後期課程）への進学者は増加すると予測される。これらを踏まえて、入学定員を 5 名とする。既述の学生確保に関するアンケート結果において、受験生のニーズに加え企業等の採用意向のいずれも定員を上回る数が確認できたことから、設定した入学定員は問題なく充足できるものと考えられる。

学生の確保の見通し等を記載した書類 資料

目 次

資料 1	神戸大学大学院医学系研究科先進生命医科学系専攻修士課程（仮称） 採用意向アンケート調査結果報告書	... 2
資料 2	神戸大学大学院医学系研究科未来社会医学専攻博士課程（仮称）・ 健康科学専攻博士課程（仮称）採用意向アンケート調査結果報告書	... 33
資料 3	未来社会医学専攻 入口調査	... 73

神戸大学大学院

医学系研究科 先進生命医科学系専攻 修士課程（仮称）

採用意向アンケート調査結果報告書

令和 6 年 12 月 20 日

株式会社高等教育総合研究所

目次

調査結果サマリー	1
第Ⅰ章 調査概要.....	2
・ 回答者の属性.....	3
・ 本報告書に記載のデータに関する注意点	4
第Ⅱ章 調査結果（人材需要）	5
・ 養成する人材の社会的ニーズ	5
・ 採用意向の分析	7
第Ⅲ章 調査結果（単純集計表）	11
・ スクリーニング調査	11
・ 本調査.....	14
添付資料	17
・ 概要説明リーフレット	17
・ アンケート調査票（WEB フォーム）	21

▶▶調査結果サマリー

以下の結果は、「神戸大学大学院医学系研究科先進生命医科学系専攻 修士課程（仮称）」（以下、当該専攻と記す）の修了生の採用が期待される全国の企業・団体に所属し、かつ人材採用に関わる計 500 人の回答に基づいている。

▶回答者の約 6 割が養成する人材の社会的ニーズは高いと回答

人材採用に関わる全 500 人の回答者のうち「ニーズは極めて高い」と回答したものは 90 人（18.0%）、「ニーズはある程度高い」と回答したものは 216 人（43.2%）であった。

▶回答者の約 4 割が当該専攻修了生の採用に前向きな意向を示す

当該専攻修了生を採用したいと「非常に思う」と回答したものは 58 人（11.6%）、「思う」と回答したものは 139 人（27.8%）であった。

▶単年度の採用可能人数は合計 407 人

単年度の採用可能人数の合計は 407 人（入学定員の 3.4 倍）となり、当該専攻の入学定員 119 人（予定）を大幅に上回る結果となった。また、採用可能人数を業種別で見ると、「医療・福祉」が 115 人（28.3%）で最も多く、次いで「行政サービス（官公庁・公共機関）」が 71 人（17.4%）、「医薬品・薬品」が 38 人（9.3%）、「大学・研究機関」が 32 人（7.9%）となった。これらを踏まえると、当該専攻が養成する人材には、将来活躍が期待される企業・団体において、安定した人材需要がうかがえる。

【参考：想定される進路】

大学・研究機関、医療機関、行政機関、保健業界、健康業界、医療機器業界、IT 業界、教育業界、食品業界、製薬業界、国際機関（WHO, UNESCO 等）

第Ⅰ章 調査概要

▶調査の目的

本調査は、神戸大学が令和8年4月に設置を構想している「神戸大学大学院医学系研究科先進生命医科学系専攻修士課程（仮称）」における人材需要の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。

▶調査対象

当該専攻の修了生の採用が期待される全国の企業・団体等の人材採用担当者計1,001件を対象とした。

▶調査期間

令和6年11月14日～令和6年11月15日

▶回収状況

有効回収数 500 件 有効回収率 50.0%

▶調査項目

・スクリーニング調査

質問項目は全5問とし、主な項目は以下の通りである。

- ・回答者の基本情報
- ・回答者が所属する企業・団体の業種

・本調査

質問項目は全5問とし、主な項目は以下の通りである。

- ・回答者が所属する企業・団体の基本情報
- ・当該専攻修了生の採用意向

▶調査方法

インターネットによるアンケート調査

▶調査実施機関

株式会社クロス・マーケティング

▶調査主体

株式会社高等教育総合研究所

▶回答者の属性（※詳細は11～15ページの単純集計表を参照）

本調査における500人の回答者の主な属性は以下の通りである。

※構成比の高い順（降順）に記載。

・職業：（※いずれの回答者も業務に人材採用が含まれている。）

-会社勤務（管理職）	: 27.6%
-公務員・教職員・非営利団体職員	: 18.8%
-専門職（医師等の専門職）	: 18.6%
-会社経営（経営者・役員）	: 14.4%
-会社勤務（一般社員）	: 12.8%
-自営業（商工サービス）	: 7.8%

・業種：

-医療・福祉	: 43.6%
-行政サービス（官公庁・公共機関）	: 14.4%
-教育・学習支援業	: 6.8%
-その他	: 6.6%
-ソフトウェア・情報処理	: 5.8%
-大学・研究機関	: 5.6%
-医薬品・薬品（※医療品卸は除く）	: 5.0%
-商社・卸売	: 3.2%
-その他製造業	: 2.4%
-半導体・精密機器	: 2.2%
-医療機器	: 1.2%
-その他情報サービス業	: 1.2%
-飲料・食品・食品加工	: 0.8%
-化学・石油化学	: 0.6%

-医療品卸	: 0.2%
-コンピュータ・通信機器	: 0.2%
-通信	: 0.2%

・企業・団体の所在地（地域別）：

-関東地方	: 39.6%
-近畿地方	: 19.4%
-東海地方	: 10.6%
-九州地方	: 9.6%
-北海道地方	: 7.6%
-東北地方	: 6.0%
-中国地方	: 3.6%
-北陸地方	: 1.8%
-四国地方	: 1.4%
-沖縄地方	: 0.4%

▶本報告書に記載のデータに関する注意点

・報告書内の表記について

1. グラフの数値（%）は、小数第二位を四捨五入して表示している。
2. 本文の数値（%）は、小数第二位を四捨五入して表示している。

・地域区分

本報告書における地域区分は、以下の「10 地域区分」を用いる。

北海道地方	: 北海道
東北地方	: 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東地方	: 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、栃木県、茨城県、群馬県、山梨県、長野県
北陸地方	: 新潟県、富山県、石川県、福井県
東海地方	: 静岡県、岐阜県、愛知県、三重県
近畿地方	: 大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県
中国地方	: 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国地方	: 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州地方	: 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
沖縄地方	: 沖縄県

第Ⅱ章 調査結果（人材需要）

▶養成する人材の社会的ニーズ

- ▶約 6 割（306 人、61.2%）の回答者が「養成する人材の社会的ニーズは高い」と回答。
- ▶「ニーズは高い」と回答した 306 人のうち、約 4 割（127 人、41.5%）が「医療・福祉」分野に所属。

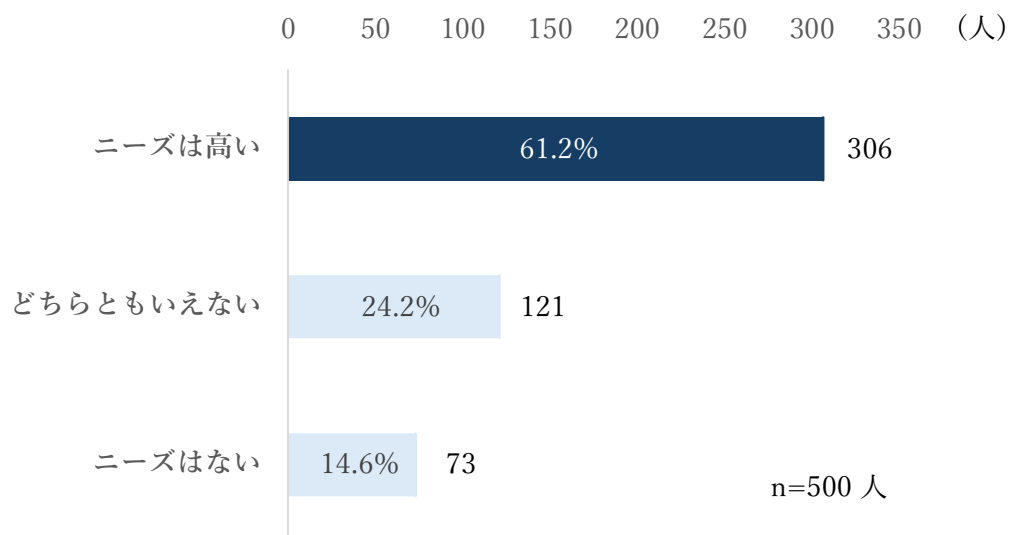


図 1 先進生命医科学系専攻（仮称）が養成する人材の社会的ニーズ

【データ】本調査 Q3 の集計結果を基に、筆者が加工・作成。

※「ニーズは高い」＝「ニーズは極めて高い」と「ニーズはある程度高い」の合算。

※「ニーズはない」＝「ニーズはあまりない」と「ニーズはない」の合算。

以下のグラフは、本調査 Q3 で「ニーズは極めて高い」または「ニーズはある程度高い」を選択した 306 人を対象に、業種別に集計した結果である。

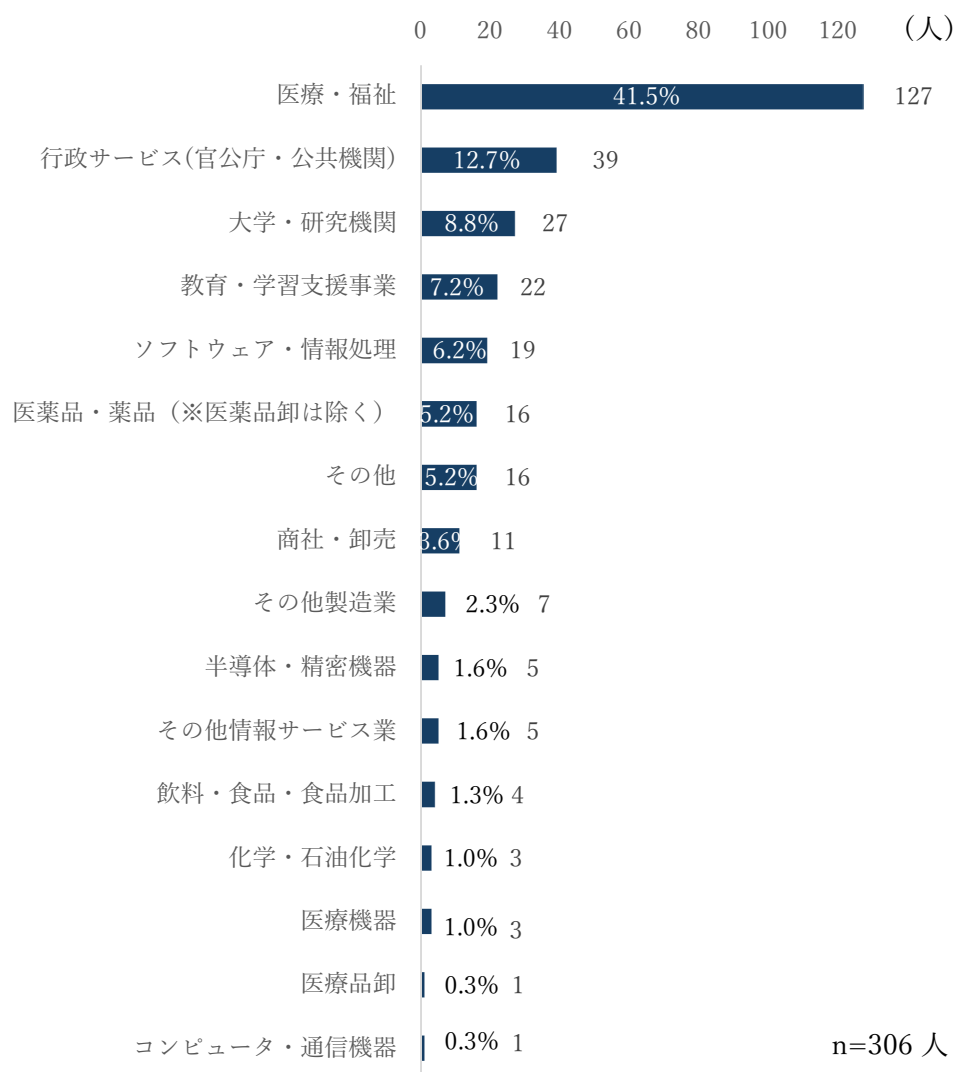


図 2 先進生命医科学系専攻（仮称）が養成する人材の社会的ニーズ（業種別）

【データ】本調査 Q3 で「ニーズは極めて高い」または「ニーズはある程度高い」を選択した 306 人の回答を基に、筆者が業種別に加工・作成。

※グラフのデータは「ニーズは極めて高い」と「ニーズはある程度高い」の数値を業種別に合算した値。

▶採用意向の分析

- ▶約4割（197人、39.4%）の回答者が当該専攻修了生の採用に前向きな意向を示す。
- ▶単年度の採用可能人数の合計は407人で、入学定員119人（予定）を大幅に上回る。

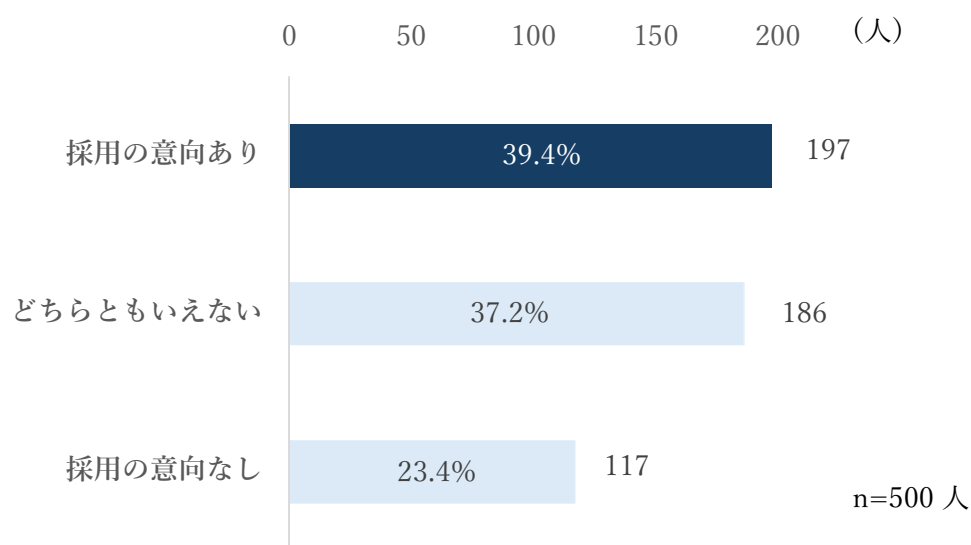


図3 先進生命医科学系専攻（仮称）の修了生に対する採用意向

【データ】本調査 Q4 の集計結果を基に、筆者が加工作成。

※「採用の意向あり」＝採用したいと「非常に思う」と「思う」を合算。

※「採用の意向なし」＝採用したいと「思わない」と「全く思わない」を合算。

以下のグラフは、本調査 Q4 で「(採用したいと) 非常に思う」または「(採用したいと) 思う」を選択した 197 人を対象に、業種別に集計した結果である。

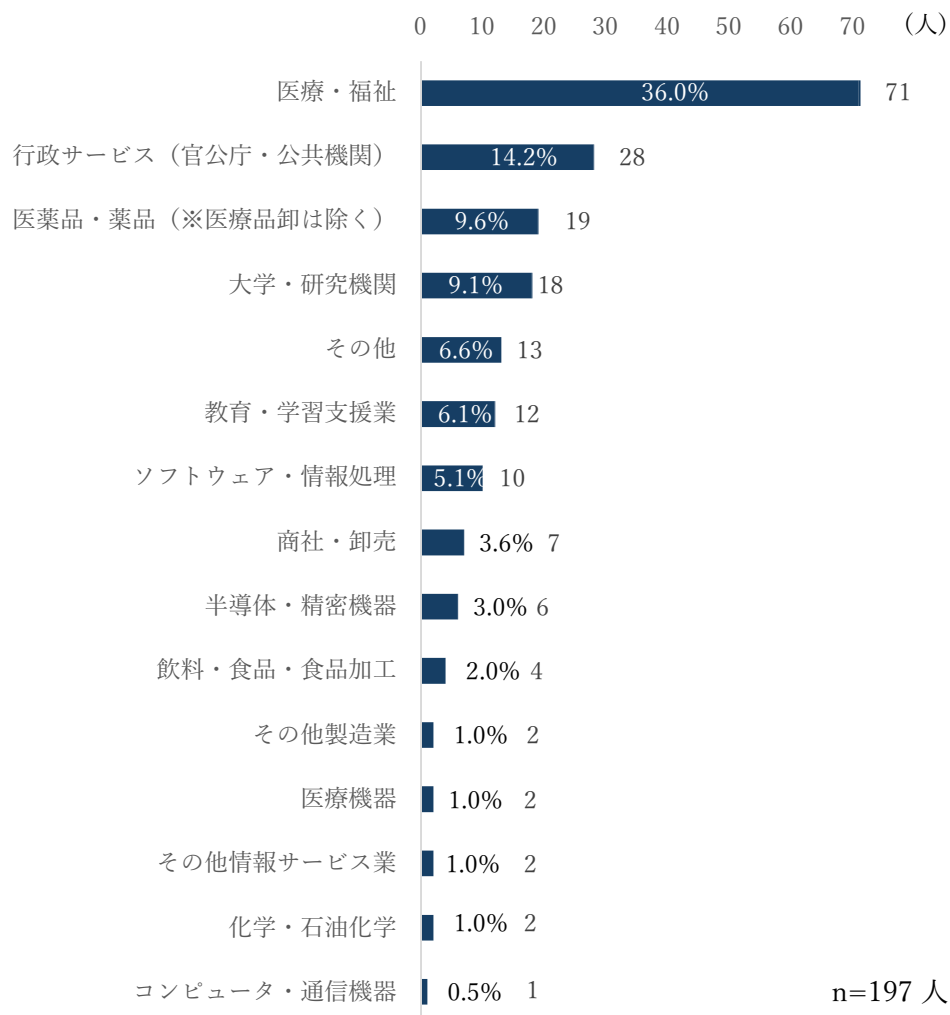


図 4 先進生命医科学系専攻 (仮称) の修了生に対する採用意向 (業種別)

【データ】本調査 Q4 で「非常に思う」または「思う」を選択した 197 人の回答を基に、筆者が業種別に加工・作成。

※グラフのデータは「非常に思う」と「思う」の数値を業種別に合算した値。

以下のグラフは、本調査 Q4 で「非常に思う」または「思う」を選択した 197 人のうち、Q5 で回答された「単年度に採用可能な人数（1～5）」の総計を示している。「わからない」を選択した 49 人は除外。

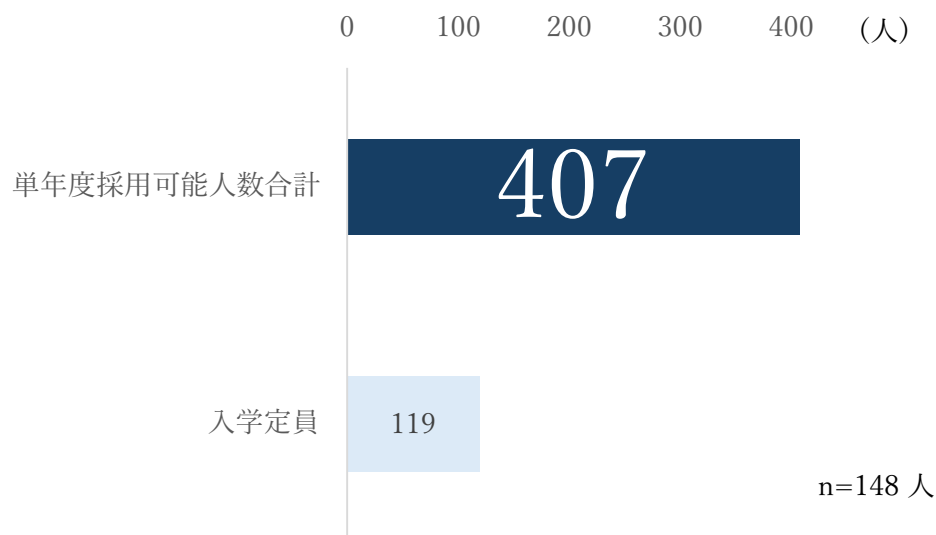


図 5 単年度の採用可能人数と入学定員（予定）

【データ】本調査 Q5 の集計結果を基に、筆者が加工・作成。

※グラフのデータは「単年度に採用可能な人数（1～5）」を総計した値。

※Q5 で「5 人以上」を選択した回答は、5 人として集計。

以下のグラフは、本調査 Q4 で「非常に思う」または「思う」を選択した 197 人のうち、Q5 で回答された「単年度に採用可能な人数（1～5）」を業種別に合計した結果である。「わからない」を選択した 49 人は除外。

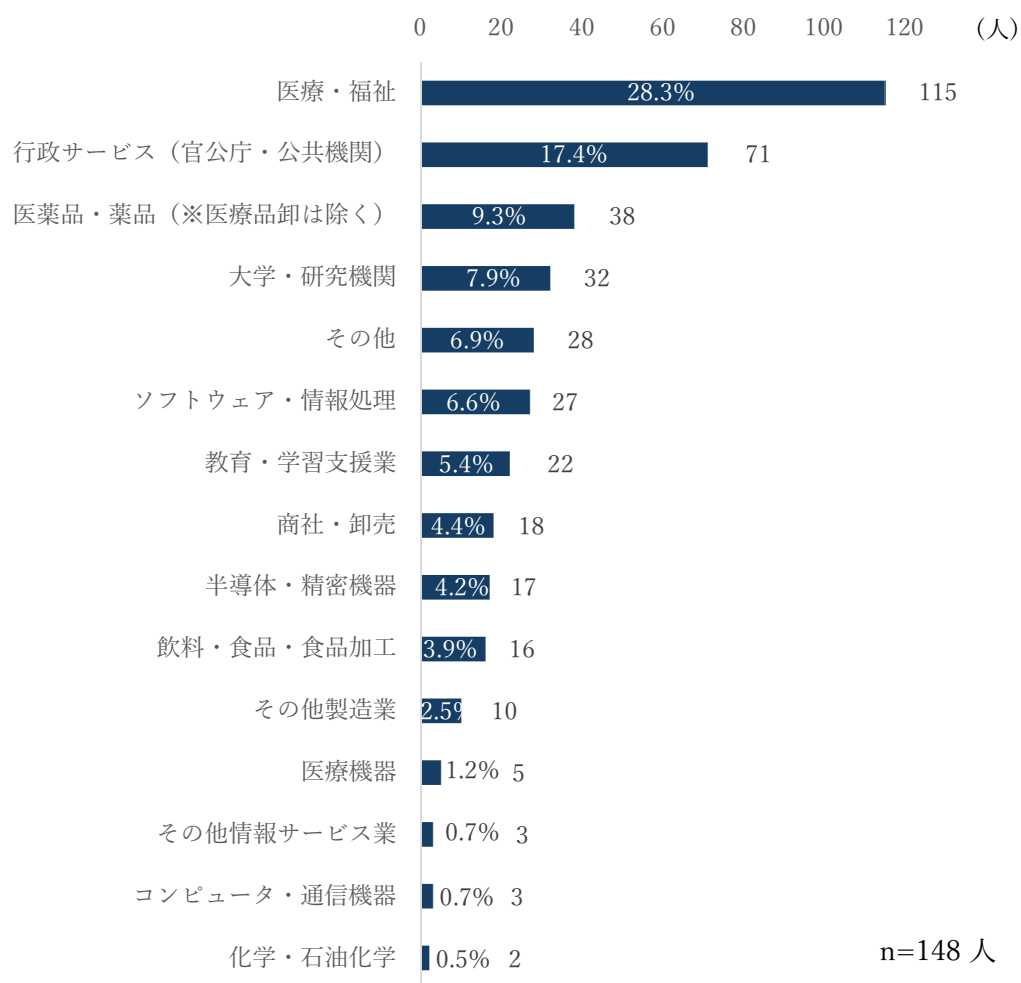


図 6 単年度の採用可能人数（業種別）

【データ】本調査 Q5 の集計結果を基に、筆者が業種別に加工・作成。

※グラフのデータは「単年度に採用可能な人数」を業種別に合計した値。

※Q5 で「5 人以上」を選択した回答は、5 人として集計。

第Ⅲ章 調査結果（単純集計表）

▶スクリーニング調査

SC1_あなたの性別をお答えください。（単一回答）

n=500	回答数	構成比（％）
男性	419	83.8
女性	81	16.2

SC2_あなたの年齢をお答えください。（数値入力）

n=500	年齢
平均値	54.1
最小値	20
最大値	83

SC3_あなたの現在の職業をお答えください。（単一回答）

n=500	回答数	構成比（％）
会社勤務（一般社員）	64	12.8
会社勤務（管理職）	138	27.6
会社経営（経営者・役員）	72	14.4
公務員・教職員・非営利団体職員	94	18.8
派遣社員・契約社員	0	0.0
自営業（商工サービス）	39	7.8
農林漁業	0	0.0
専門職（弁護士・税理士等の法務経営の専門職）	0	0.0
専門職（医師等の医療関連の専門職）	93	18.6
パート・アルバイト	0	0.0
その他の職業	0	0.0

n=500	回答数	構成比 (%)
専業主婦・主夫	0	0.0
学生	0	0.0
無職	0	0.0

SC4_あなたの業務に、人材採用に関わる業務は含まれていますか。(単一回答)

n=500	回答数	構成比 (%)
はい	500	100.0
いいえ	0	0.0

SC5_お勤め先の業種についてお答えください。(単一回答)

n=500	回答数	構成比 (%)
行政サービス（官公庁・公共機関）	72	14.4
大学・研究機関	28	5.6
教育・学習支援業	34	6.8
医療・福祉	218	43.6
医薬品・薬品（※医療品卸は除く）	25	5.0
医療品卸	1	0.2
商社・卸売	16	3.2
化粧品	0	0.0
トイレタリー	0	0.0
化学・石油化学	3	0.6
健康食品	0	0.0
飲料・食品・食品加工	4	0.8
医療機器	6	1.2
半導体・精密機器	11	2.2
コンピュータ・通信機器	1	0.2
その他製造業	12	2.4
通信	1	0.2
ソフトウェア・情報処理	29	5.8
その他情報サービス業	6	1.2

n=500	回答数	構成比 (%)
国際機関 (WHO、UNESCO等)	0	0.0
その他	33	6.6

▶本調査

Q1_お勤め先の所在地をお答えください。(単一回答)

n=500	回答数	構成比 (%)
北海道	38	7.6
青森県	1	0.2
岩手県	4	0.8
宮城県	12	2.4
秋田県	5	1.0
山形県	4	0.8
福島県	4	0.8
茨城県	6	1.2
栃木県	4	0.8
群馬県	5	1.0
埼玉県	14	2.8
千葉県	17	3.4
東京都	102	20.4
神奈川県	37	7.4
新潟県	3	0.6
富山県	2	0.4
石川県	0	0.0
福井県	4	0.8
山梨県	3	0.6
長野県	10	2.0
岐阜県	7	1.4
静岡県	10	2.0
愛知県	32	6.4
三重県	4	0.8
滋賀県	1	0.2
京都府	12	2.4
大阪府	53	10.6
兵庫県	18	3.6
奈良県	7	1.4

n=500	回答数	構成比 (%)
和歌山県	6	1.2
鳥取県	1	0.2
島根県	1	0.2
岡山県	7	1.4
広島県	9	1.8
山口県	0	0.0
徳島県	1	0.2
香川県	2	0.4
愛媛県	3	0.6
高知県	1	0.2
福岡県	22	4.4
佐賀県	5	1.0
長崎県	3	0.6
熊本県	7	1.4
大分県	4	0.8
宮崎県	3	0.6
鹿児島県	4	0.8
沖縄県	2	0.4

Q2_お勤め先の従業員数（正規社員数）をお答えください。（単一回答）

n=500	回答数	構成比 (%)
50人未満	209	41.8
50人～99人	40	8.0
100人～299人	74	14.8
300人～499人	26	5.2
500人～999人	36	7.2
1,000人～2,999人	42	8.4
3,000人～4,999人	18	3.6
5,000人以上	55	11.0

Q3_2026年度（令和8年）に設置構想中の神戸大学大学院「医学系研究科 先進生命医科学系専攻」（修士課程）（仮称）が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。（単一回答）

n=500	回答数	構成比（%）
ニーズは極めて高い	90	18.0
ニーズはある程度高い	216	43.2
どちらともいえない	121	24.2
ニーズはあまりない	26	5.2
ニーズはない	47	9.4

Q4_神戸大学大学院「医学系研究科 先進生命医科学系専攻」（修士課程）（仮称）を修了した学生を採用したいと思いますか。（単一回答）

n=500	回答数	構成比（%）
非常に思う	58	11.6
思う	139	27.8
どちらともいえない	186	37.2
思わない	58	11.6
全く思わない	59	11.8

Q5_神戸大学大学院「医学系研究科 先進生命医科学系専攻」（修士課程）（仮称）を修了した学生を、単年度で採用可能と思われる採用人数は何人ですか。（単一回答）

※Q4 で、「非常に思う」または「思う」を選択した回答者が対象。

n=197	回答数	構成比（%）
1人	46	23.4
2人	26	13.2
3人	30	15.2
4人	11	5.6
5人以上	35	17.8
わからない	49	24.9

▶▶ 添付資料

▶ 概要説明リーフレット

・ 1/4



養成する人物像

専門知の深化と
総合知による課題解決

課題設定能力
勝ち筋の見極め

社会実装を可能とする
突破力

未来志向へのアプローチ

現代社会は、新型コロナウイルス等の感染症蔓延や気候変動、さらに生成 AI 等の技術革新により急速に変化しており、既存の価値観や知識だけでは新たに生じた課題に対応できません。

このような社会は「VUCA の時代」と呼ばれ、単独の専門分野の知識では解決が難しくなっています。

この大変革の時代における大学は、専門知を深めるだけでは不十分であり、あらゆる分野の知識を総合的に活用し、「総合知」を生み出す場となり、強力に推進することが求められています。

改編・新設専攻の 入学定員及び学位の種類

D 博士課程

[仮称]

未来社会医学専攻

5 名

博士（公衆衛生学）

公衆衛生の最前線で課題解決
保健・医療機器・健康関連企業で課題解決
グローバルな視点で健康政策策定
総合保健医療のあり方創造
国際的な公衆衛生課題の解決
新たな医療・保健システムのデザイン

[仮称]

健康科学専攻

25 名

博士（保健学）

健康科学に関する高度な分析力
健康を守る指導的役割
独自の・創造的に解決
国際的に普遍的な価値を持つ知識・技術を創造
医療保健福祉チームの一員として協働

M 修士課程

[仮称]

先進生命医科学系専攻 119 名

生命医学系の専門知を深掘り拡大し
総合知を活用する教育を実践

高い倫理観を備え

研究・開発・実践に係る専門知と総合知を
結合させた卓越した問題解決能力を持つ人材

[仮称]

未来社会 医学領域

修士（公衆衛生学）

公衆衛生上の課題を創造的に解決

他分野の人々と協働して
国内外の公衆衛生上の課題を解決

新たな医療・保健システムの
開発をデザイン

[仮称]

健康科学 領域

修士（保健学）

人々の健康を守るために
指導的役割を遂行

地域の各々に最も相応しい形で
健康科学上の課題解決策を提案・適用

医療創成 工学領域

修士（医工学）

臨床医学知識を有し現場ニーズの抽出

医療機器「概念」を創造・具現化
医療機器実用化に必要な知識を有し
成果を発信

BMS

領域

修士（バイオメディカルサイエンス）

生命科学・医学の探求心と
創造性を持つ課題力

深い学識と論理的思考、高度な専門力

▶アンケート調査票（WEB フォーム）

【スクリーニング調査票】

Page 1

SC1

あなたの性別をお答えください。

1 ☐ 男性

2 ☐ 女性

SC2

あなたの年齢をお答えください。

歳

次へ

SC3

あなたの現在の職業をお答えください。

- 1 ☐ 会社勤務(一般社員)
- 2 ☐ 会社勤務(管理職)
- 3 ☐ 会社経営(経営者・役員)
- 4 ☐ 公務員・教職員・非営利団体職員
- 5 ☐ 派遣社員・契約社員
- 6 ☐ 自営業(商工サービス)
- 7 ☐ 農林漁業
- 8 ☐ 専門職(弁護士・税理士等の法務経営の専門職)
- 9 ☐ 専門職(医師等の医療関連の専門職)
- 10 ☐ パート・アルバイト
- 11 ☐ その他の職業
- 12 ☐ 専業主婦・主夫
- 13 ☐ 学生
- 14 ☐ 無職

次へ

SC4

あなたの業務に、人材採用に関わる業務は含まれていますか。

- 1 ☐ はい
- 2 ☐ いいえ

次へ

SC5

お勤め先の業種についてお答えください。

※複数に当てはまる場合は、主たる業種についてお答えください。

- 1 ○ 行政サービス(官公庁・公共機関)
- 2 ○ 大学・研究機関
- 3 ○ 教育・学習支援業
- 4 ○ 医療・福祉
- 5 ○ 医薬品・薬品(※医療品卸は除く)
- 6 ○ 医療品卸
- 7 ○ 商社・卸売
- 8 ○ 化粧品
- 9 ○ トイレタリー
- 10 ○ 化学・石油化学
- 11 ○ 健康食品
- 12 ○ 飲料・食品・食品加工
- 13 ○ 医療機器
- 14 ○ 半導体・精密機器
- 15 ○ コンピュータ・通信機器
- 16 ○ その他製造業
- 17 ○ 通信
- 18 ○ ソフトウェア・情報処理
- 19 ○ その他情報サービス業
- 20 ○ 国際機関(WHO、UNESCO等)
- 21 ○ その他

次へ

【本調査票】

Page 1

神戸大学大学院 「先進生命医科学系専攻 修士課程」(仮称・設置構想中) 設置構想についての採用意向アンケート調査

神戸大学では、令和8年4月に医学研究科と保健学研究科を統合し「医学系研究科(仮称)」として改編し、「神戸大学大学院医学系研究科 先進生命医科学系専攻修士課程(仮称)」〈入学定員 119 名予定〉の設置を構想しております。本学ではこのアンケート調査を通して、将来修了生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。

なお、ご回答いただいた皆様から得られた情報は、神戸大学大学院医学系研究科先進生命医科学系専攻修士課程(仮称)の設置に係る統計資料ならびに、文部科学省への提出書類の一部資料としてのみ活用いたします。アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・機関が識別できる情報として、公表されることはありません。

何卒ご協力のほど、謹んでお願い申し上げます。

※本アンケート調査は、神戸大学から委託された第3者機関・株式会社高等教育総合研究所が実施しています。

※本アンケート調査や関連する資料に記載されている神戸大学大学院医学系研究科先進生命医科学系専攻修士課程(仮称・設置構想中)に関する事項はすべて予定であり、今後内容が変更になる可能性があります。

Q1

お勤め先の所在地をお答えください。

 ▼

Q2

お勤め先の従業員数(正規社員数)をお答えください。

- 1 ○ 50人未満
- 2 ○ 50人～99人
- 3 ○ 100人～299人
- 4 ○ 300人～499人
- 5 ○ 500人～999人
- 6 ○ 1,000人～2,999人
- 7 ○ 3,000人～4,999人
- 8 ○ 5,000人以上

次へ

神戸大学大学院「医学系研究科 先進生命医科学系専攻修士課程(仮称・設置構想中)」概要書

神戸大学大学院「医学系研究科 先進生命医科学系専攻修士課程(仮称・設置構想中)」概要書の内容をご確認の上、以降に続く設問にご回答ください。



養成する人物像

専門知の深化と
総合知による課題解決

課題設定能力
勝ち筋の見極め

社会実装を可能とする
突破力

未来志向へのアプローチ

現代社会は、新型コロナウイルス等の感染症蔓延や気候変動、さらに生成 AI 等の技術革新により急速に変化しており、既存の価値観や知識だけでは新たに生じた課題に対応できません。

このような社会は「VUCA の時代」と呼ばれ、単独の専門分野の知識では解決が難しくなっています。

この大変革の時代における大学は、専門知を深めるだけでは不十分であり、あらゆる分野の知識を総合的に活用し、「総合知」を生み出す場となり、強力に推進することが求められています。

改編・新設専攻の 入学定員及び学位の種類

D 博士課程

[仮称]

未来社会医学専攻

5 名

博士（公衆衛生学）

公衆衛生の最前線で課題解決
保健・医療機器・健康関連企業で課題解決
グローバルな視点で健康政策策定
総合保健医療のあり方創造
国際的な公衆衛生課題の解決
新たな医療・保健システムのデザイン

[仮称]

健康科学専攻

25 名

博士（保健学）

健康科学に関する高度な分析力
健康を守る指導的役割
独自の・創造的に解決
国際的に普遍的な価値を持つ知識・技術を創造
医療保健福祉チームの一員として協働

M 修士課程

[仮称]

先進生命医科学系専攻 119 名

生命医学系の専門知を深掘り拡大し
総合知を活用する教育を実践

高い倫理観を備え

研究・開発・実践に係る専門知と総合知を
結合させた卓越した問題解決能力を持つ人材

[仮称]

未来社会 医学領域

修士（公衆衛生学）

公衆衛生上の課題を創造的に解決
他分野の人々と協働して
国内外の公衆衛生上の課題を解決
新たな医療・保健システムの
開発をデザイン

[仮称]

健康科学 領域

修士（保健学）

人々の健康を守るために
指導的役割を遂行
地域の各々に最も相応しい形で
健康科学上の課題解決策を提案・適用

医療創成 工学領域

修士（医工学）

臨床医学知識を有し現場ニーズの抽出
医療機器「概念」を創造・具現化
医療機器実用化に必要な知識を有し
成果を発信

BMS 領域

修士（バイオメディカルサイエンス）

生命科学・医学の探求心と
創造性を持つ課題力
深い学識と論理的思考、高度な専門力

次へ

Q3

2026年度(令和8年)に設置構想中の神戸大学大学院「医学系研究科 先進生命医科学系専攻」(修士課程)(仮称)が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。

- 1 ☐ ニーズは極めて高い
- 2 ☐ ニーズはある程度高い
- 3 ☐ どちらともいえない
- 4 ☐ ニーズはあまりない
- 5 ☐ ニーズはない

Q4

神戸大学大学院「医学系研究科 先進生命医科学系専攻」(修士課程)(仮称)を修了した学生を採用したいと思いますか。

- 1 ☐ 非常に思う
- 2 ☐ 思う
- 3 ☐ どちらともいえない
- 4 ☐ 思わない
- 5 ☐ 全く思わない

[次へ](#)

Q5

神戸大学大学院「医学系研究科 先進生命医科学系専攻」(修士課程)(仮称)を修了した学生を、単年度で採用可能と思われる採用人数は何人ですか。

- 1 ☐ 1人
- 2 ☐ 2人
- 3 ☐ 3人
- 4 ☐ 4人
- 5 ☐ 5人以上
- 6 ☐ わからない

[送信](#)

神戸大学大学院

医学系研究科 未来社会医学専攻 博士課程（仮称）

医学系研究科 健康科学専攻 博士課程（仮称）

採用意向アンケート調査結果報告書

令和 6 年 12 月 20 日

株式会社高等教育総合研究所

目次

調査結果サマリー	1
第Ⅰ章 調査概要.....	3
・ 回答者の属性.....	4
・ 本報告書に記載のデータに関する注意点	5
第Ⅱ章 調査結果（人材需要）	6
「未来社会医学専攻（仮称）」	6
・ 養成する人材の社会的ニーズ	6
・ 採用意向の分析	8
「健康科学専攻（仮称）」	12
・ 養成する人材の社会的ニーズ	12
・ 採用意向の分析	14
第Ⅲ章 調査結果（単純集計表）	18
・ スクリーニング調査	18
・ 本調査.....	21
添付資料	25
・ 概要説明リーフレット	25
・ アンケート調査票（WEB フォーム）	29

▶▶調査結果サマリー

以下の結果は、神戸大学大学院「医学系研究科未来社会医学専攻 博士課程（仮称）」・「医学系研究科健康科学専攻 博士課程（仮称）」の修了生の採用が期待される全国の企業・団体に所属し、かつ人材採用に関わる計 100 人の回答に基づいている。

「未来社会医学専攻 博士課程（仮称）」

▶回答者の約 5 割が養成する人材の社会的ニーズは高いと回答

人材採用に関わる全 100 人の回答者のうち「ニーズは極めて高い」と回答したものは 19 人（19.0%）、「ニーズはある程度高い」と回答したものは 33 人（33.0%）であった。

▶回答者の約 4 割が当該専攻修了生の採用に前向きな意向を示す

当該専攻修了生を採用したいと「非常に思う」と回答したものは 11 人（11.0%）、「思う」と回答したものは 27 人（27.0%）であった。

▶単年度の採用可能人数は合計 69 人

単年度の採用可能人数の合計は 69 人（入学定員の 13.8 倍）となり、当該専攻の入学定員 5 人（予定）を大幅に上回る結果となった。また、採用可能人数を業種別で見ると、「医療・福祉」が 20 人（29.0%）で最も多く、次いで「行政サービス（官公庁・公共機関）」が 13 人（18.8%）となった。また、「飲料・食品・食品加工」は 5 人（7.2%）、「医薬品・薬品」は 4 人（5.8%）、「大学・研究機関」は 3 人（4.3%）であった。これらを踏まえると、当該専攻が養成する人材には、将来活躍が期待される企業・団体において、安定した人材需要がうかがえる。

【参考：想定される進路】

大学・研究機関、医療機関、行政機関、保健業界、健康業界、医療機器業界、IT 業界、教育業界、食品業界、製薬業界、国際機関（WHO, UNESCO 等）

「健康科学専攻 博士課程（仮称）」

▶回答者の約6割が養成する人材の社会的ニーズは高いと回答

人材採用に関わる全 100 人の回答者のうち「ニーズは極めて高い」と回答したものは 17 人（17.0%）、「ニーズはある程度高い」と回答したものは 40 人（40.0%）であった。

▶回答者の約4割が当該専攻修了生の採用に前向きな意向を示す

当該専攻修了生を採用したいと「非常に思う」と回答したものは 13 人（13.0%）、「思う」と回答したものは 26 人（26.0%）であった。

▶単年度の採用可能人数は合計76人

単年度の採用可能人数の合計は 76 人（入学定員の 3.0 倍）となり、当該専攻の入学定員 25 人（予定）を大幅に上回る結果となった。また、採用可能人数を業種別で見ると、「医療・福祉」が 27 人（35.5%）で最も多く、次いで「その他」が 11 人（14.5%）、「行政サービス（官公庁・公共機関）」が 9 人（11.8%）となった。また、「大学・研究機関」は 3 人（3.9%）、「教育・学習支援業」は 3 人（3.9%）であった。これらを踏まえると、当該専攻が養成する人材には、将来活躍が期待される企業・団体において、安定した人材需要がうかがえる。

【参考：想定される進路】

大学・研究所・企業での研究者、大学等教育機関教員、国際機関職員、行政機関教員、医療機関、海外医療人材

第Ⅰ章 調査概要

▶調査の目的

本調査は、神戸大学が令和8年4月に設置を構想している神戸大学大学院「医学系研究科未来社会医学専攻博士課程（仮称）」・「医学系研究科健康科学専攻博士課程（仮称）」における人材需要の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。

▶調査対象

「未来社会医学専攻（博士課程）」・「健康科学専攻（博士課程）」の修了生の採用が期待される全国の企業・団体等の人材採用担当者計209件を対象とした。

▶調査期間

令和6年11月14日～令和6年11月15日

▶回収状況

有効回収数 100 件 有効回収率 47.8%

▶調査項目

・スクリーニング調査

質問項目は全5問とし、主な項目は以下の通りである。

- ・回答者の基本情報
- ・回答者が所属する企業・団体の業種

・本調査

質問項目は全8問とし、主な項目は以下の通りである。

- ・回答者が所属する企業・団体の基本情報
- ・当該専攻修了生の採用意向

▶調査方法

インターネットによるアンケート調査

▶調査実施機関

株式会社クロス・マーケティング

▶調査主体

株式会社高等教育総合研究所

▶回答者の属性（※詳細は18～22ページの単純集計表を参照）

本調査における100人の回答者の主な属性は以下の通りである。

※構成比の高い順（降順）に記載。

・職業：（※いずれの回答者も業務に人材採用が含まれている。）

-会社勤務（管理職）	： 29.0%
-公務員・教職員・非営利団体職員	： 20.0%
-専門職（医師等の専門職）	： 16.0%
-会社勤務（経営者・役員）	： 15.0%
-会社経営（一般社員）	： 15.0%
-自営業（商工サービス）	： 5.0%

・業種：

-医療・福祉	： 46.0%
-行政サービス（官公庁・公共機関）	： 15.0%
-商社・卸売	： 7.0%
-その他製造業	： 7.0%
-大学・研究機関	： 5.0%
-その他	： 5.0%
-医薬品・薬品（※医療品卸は除く）	： 4.0%
-教育・学習支援業	： 3.0%
-半導体・精密機器	： 2.0%
-ソフトウェア・情報処理	： 2.0%
-化学・石油化学	： 1.0%

-飲料・食品・食品加工	: 1.0%
-通信	: 1.0%
-その他情報サービス業	: 1.0%

・企業・団体の所在地（地域別）：

-関東地方	: 40.0%
-近畿地方	: 16.0%
-東海地方	: 13.0%
-九州地方	: 11.0%
-北海道地方	: 8.0%
-東北地方	: 6.0%
-中国地方	: 5.0%
-四国地方	: 1.0%

▶本報告書に記載のデータに関する注意点

・報告書内の表記について

1. グラフの数値（%）は、小数第二位を四捨五入して表示している。
2. 本文の数値（%）は、小数第二位を四捨五入して表示している。

・地域区分

本報告書における地域区分は、以下の「10 地域区分」を用いる。

北海道地方	: 北海道
東北地方	: 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東地方	: 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、栃木県、茨城県、群馬県、山梨県、長野県
北陸地方	: 新潟県、富山県、石川県、福井県
東海地方	: 静岡県、岐阜県、愛知県、三重県
近畿地方	: 大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県
中国地方	: 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国地方	: 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州地方	: 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
沖縄地方	: 沖縄県

第Ⅱ章 調査結果（人材需要）

「未来社会医学専攻（仮称）」

▶養成する人材の社会的ニーズ

- ▶約 5 割（52 人、52.0%）の回答者が「養成する人材の社会的ニーズは高い」と回答。
- ▶「ニーズは高い」と回答した 52 人のうち、約 4 割（23 人、44.2%）が「医療・福祉」分野に所属。

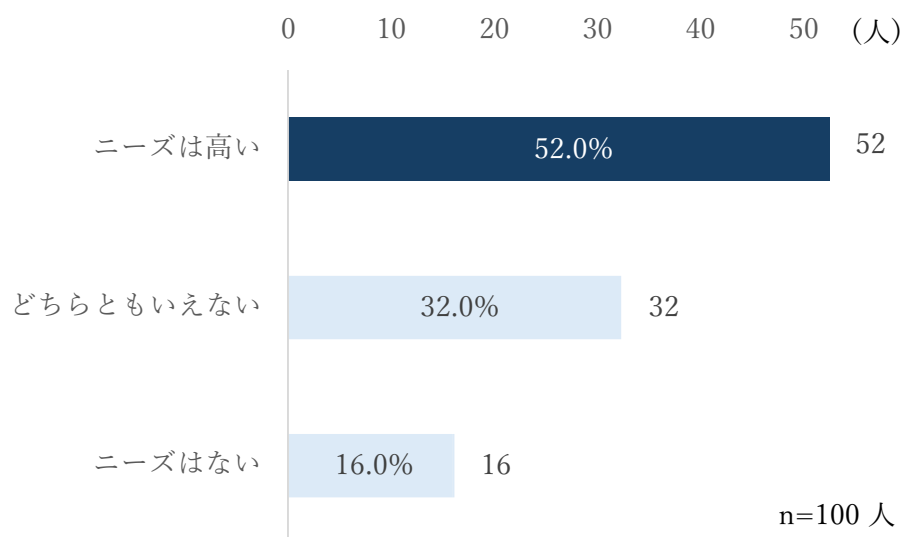


図 1 未来社会医学専攻（仮称）が養成する人材の社会的ニーズ
【データ】本調査 Q3 の集計結果を基に、筆者が加工・作成。

※「ニーズは高い」＝「ニーズは極めて高い」と「ニーズはある程度高い」の合算。

※「ニーズはない」＝「ニーズはあまりない」と「ニーズはない」の合算。

以下のグラフは、本調査 Q3 で「ニーズは極めて高い」または「ニーズはある程度高い」を選択した 52 人を対象に、業種別に集計した結果である。

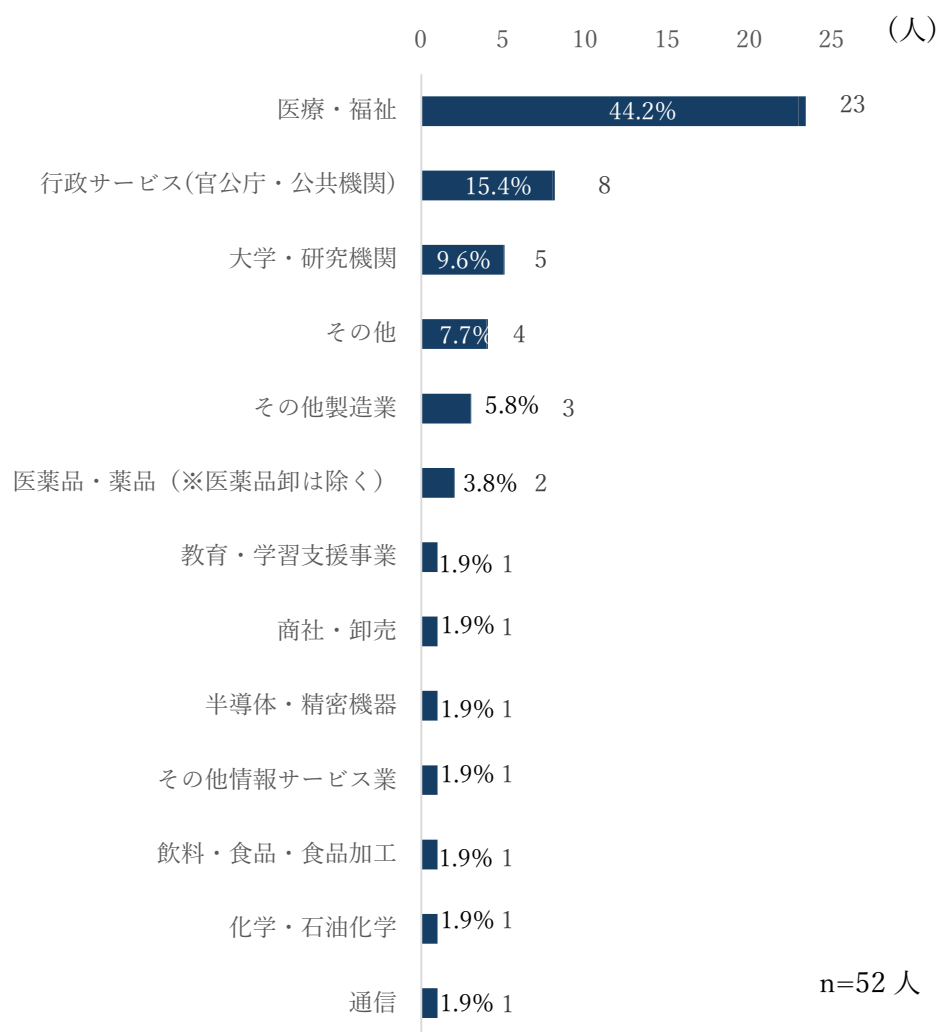


図 2 未来社会医学専攻（仮称）が養成する人材の社会的ニーズ（業種別）

【データ】本調査 Q3 で「ニーズは極めて高い」または「ニーズはある程度高い」を選択した 52 人の回答を基に、筆者が業種別に加工・作成。

※グラフのデータは「ニーズは極めて高い」と「ニーズはある程度高い」の数値を業種別に合算した値。

▶採用意向の分析

- ▶約4割（38人、38.0%）の回答者が当該専攻修了生の採用に前向きな意向を示す。
- ▶単年度の採用可能人数の合計は69人で、入学定員5人（予定）を大幅に上回る。

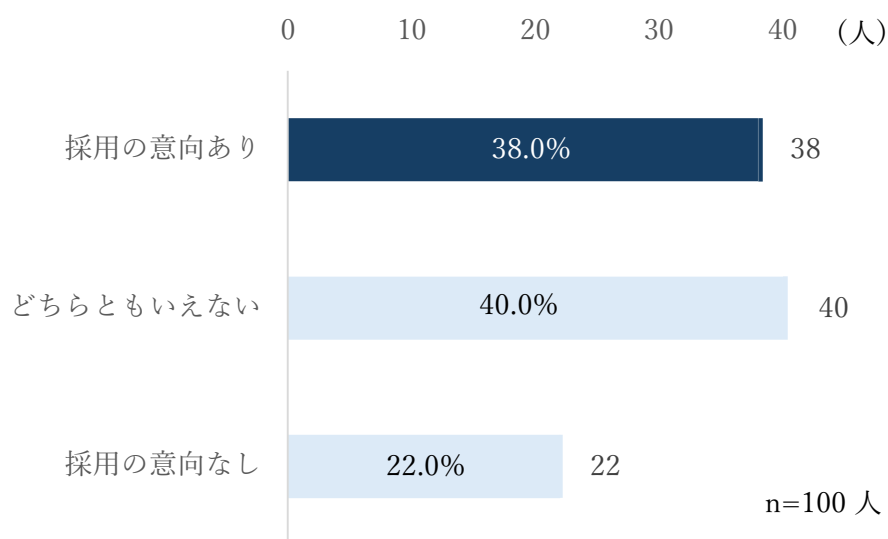


図3 未来社会医学専攻（仮称）の修了生に対する採用意向
【データ】本調査 Q4 の集計結果を基に、筆者が加工作成。

※「採用の意向あり」＝採用したいと「非常に思う」と「思う」を合算。

※「採用の意向なし」＝採用したいと「思わない」と「全く思わない」を合算。

以下のグラフは、本調査 Q4 で「(採用したいと) 非常に思う」または「(採用したいと) 思う」を選択した 38 人を対象に、業種別に集計した結果である。

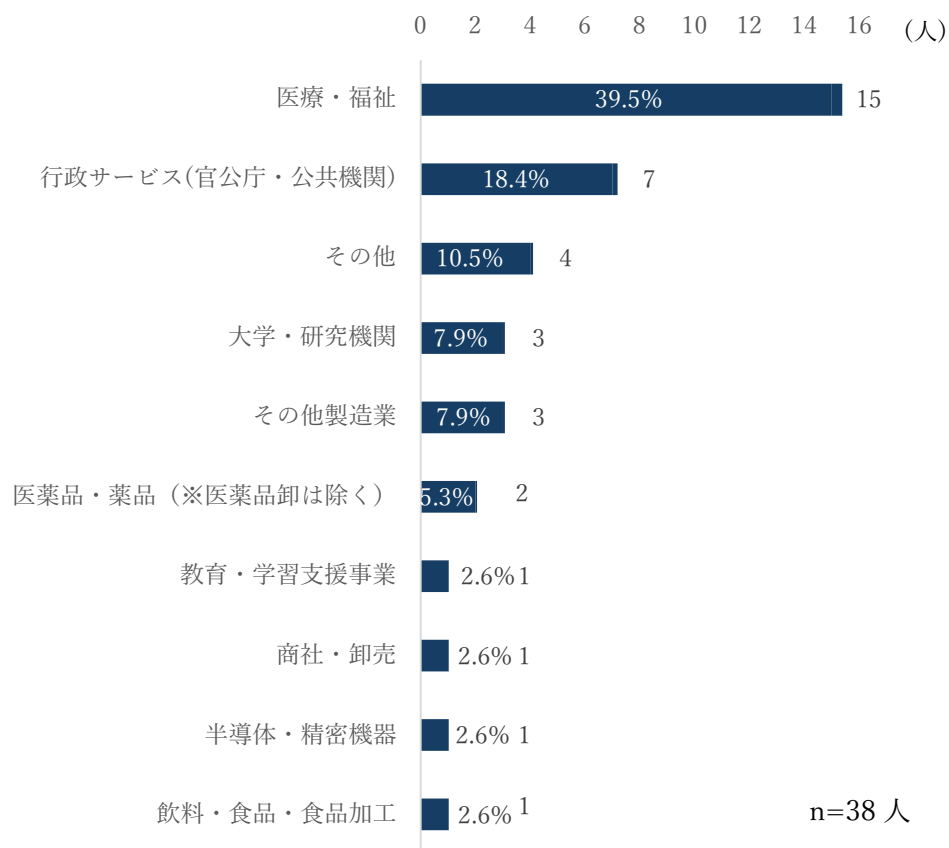


図 4 未来社会医学専攻（仮称）の修了生に対する採用意向（業種別）

【データ】本調査 Q4 で「非常に思う」または「思う」を選択した 38 人の回答を基に、筆者が業種別に加工・作成。

※グラフのデータは「非常に思う」と「思う」の数値を業種別に合算した値。

以下のグラフは、本調査 Q4 で「非常に思う」または「思う」を選択した 38 人のうち、Q5 で回答された「単年度に採用可能な人数（1～5）」の総計を示している。「わからない」を選択した 12 人は除外。

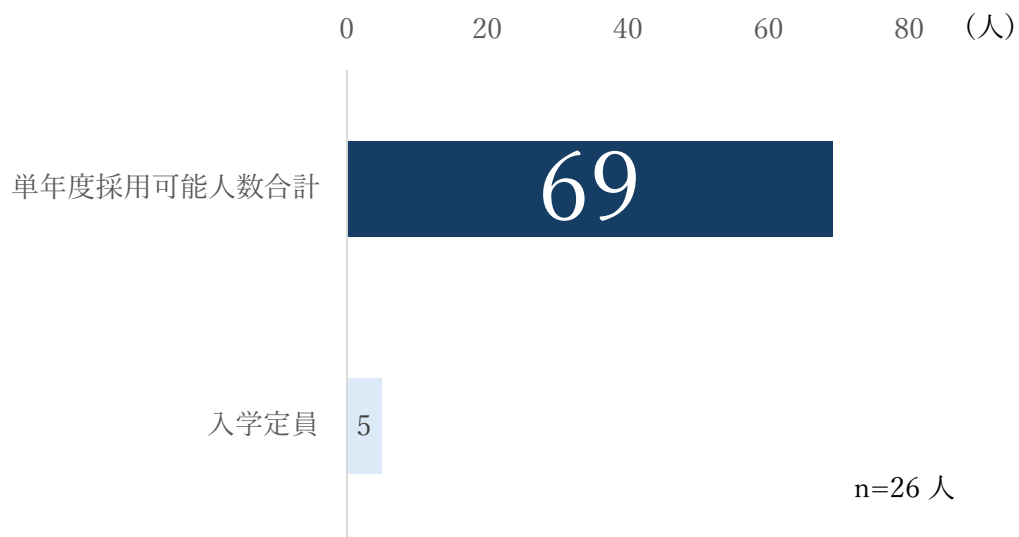


図 5 単年度の採用可能人数と入学定員（予定）

【データ】本調査 Q5 の集計結果を基に、筆者が加工・作成。

※グラフのデータは「単年度に採用可能な人数（1～5）」を総計した値。

※Q5 で「5 人以上」を選択した回答は、5 人として集計。

以下のグラフは、本調査 Q4 で「非常に思う」または「思う」を選択した 38 人のうち、Q5 で回答された「単年度に採用可能な人数（1～5）」を業種別に合計した結果である。「わからない」を選択した 12 人は除外。

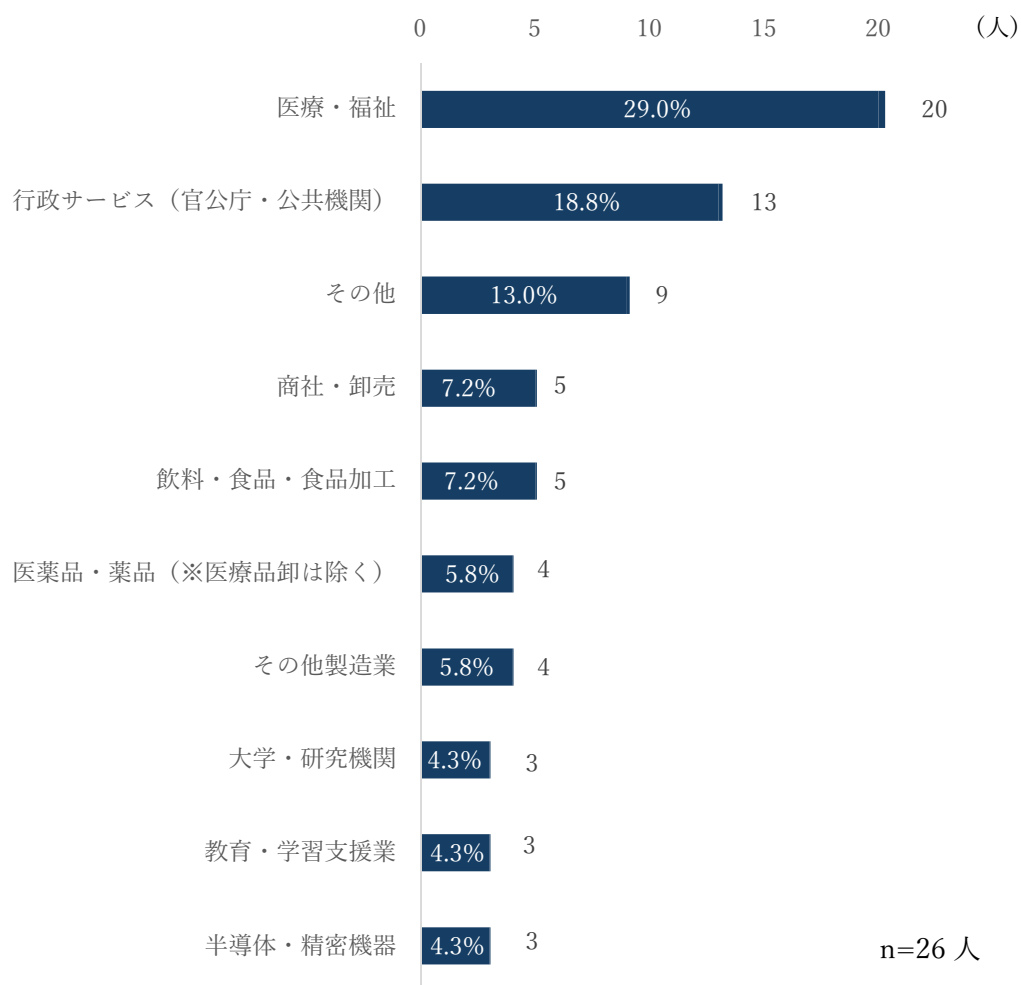


図 6 単年度の採用可能人数（業種別）

【データ】本調査 Q5 の集計結果を基に、筆者が業種別に加工・作成。

※グラフのデータは「単年度に採用可能な人数」を業種別に合計した値。

※Q5 で「5 人以上」を選択した回答は、5 人として集計。

第Ⅱ章 調査結果（人材需要）

「健康科学専攻（仮称）」

▶養成する人材の社会的ニーズ

- ▶約 6 割（57 人、57.0%）の回答者が「養成する人材の社会的ニーズは高い」と回答。
- ▶「ニーズは高い」と回答した 57 人のうち、約 5 割（28 人、49.1%）が「医療・福祉」分野に所属。

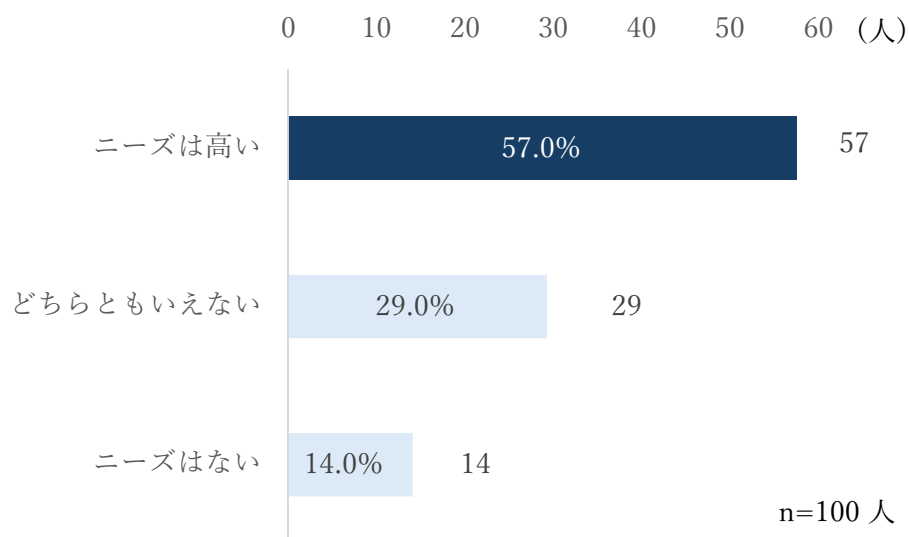


図 7 健康科学専攻（仮称）が養成する人材の社会的ニーズ
【データ】本調査 Q6 の集計結果を基に、筆者が加工・作成。

※「ニーズは高い」＝「ニーズは極めて高い」と「ニーズはある程度高い」の合算。

※「ニーズはない」＝「ニーズはあまりない」と「ニーズはない」の合算。

以下のグラフは、本調査 Q6 で「ニーズは極めて高い」または「ニーズはある程度高い」を選択した 57 人を対象に、業種別に集計した結果である。

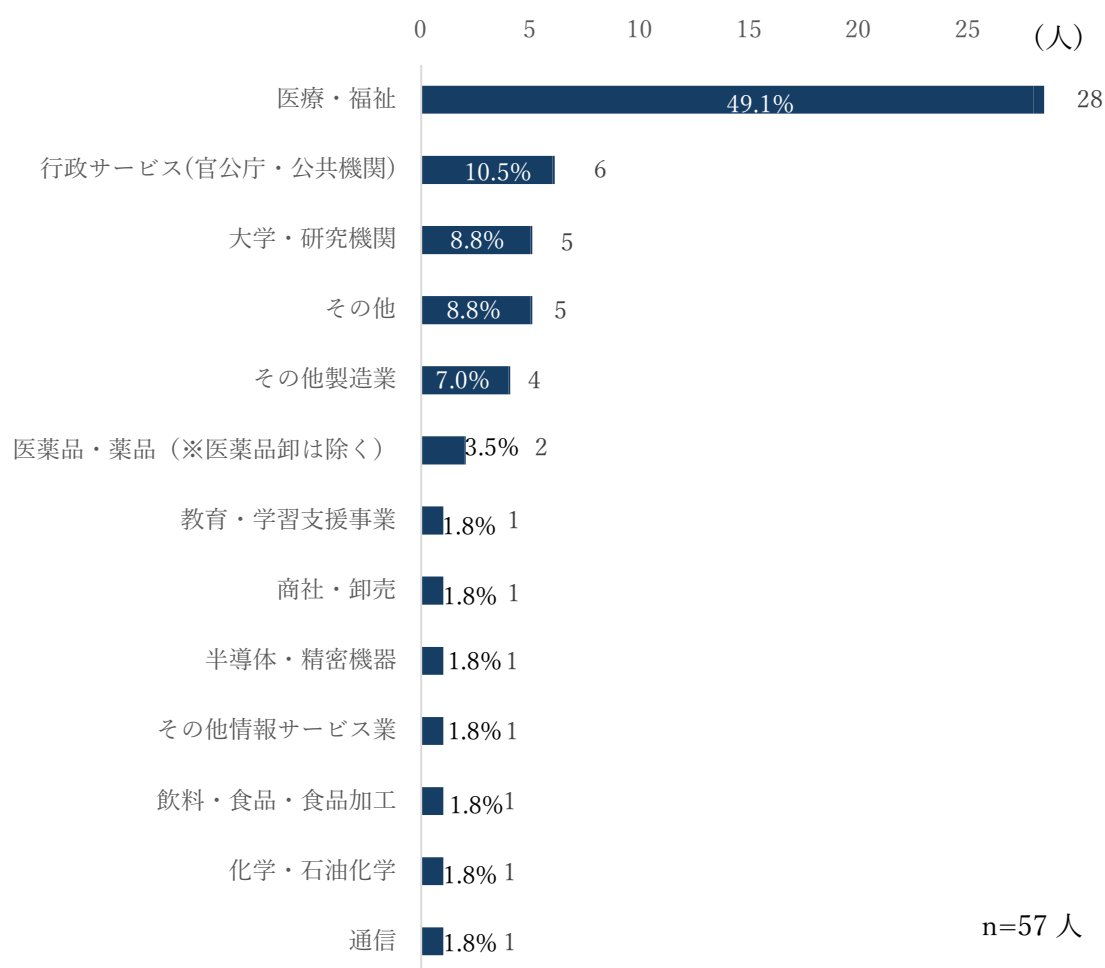


図 8 健康科学専攻（仮称）が養成する人材の社会的ニーズ（業種別）

【データ】本調査 Q6 で「ニーズは極めて高い」または「ニーズはある程度高い」を選択した 57 人の回答を基に、筆者が業種別に加工・作成。

※グラフのデータは「ニーズは極めて高い」と「ニーズはある程度高い」の数値を業種別に合算した値。

▶採用意向の分析

- ▶約4割（39人、39.0%）の回答者が当該専攻修了生の採用に前向きな意向を示す。
- ▶単年度の採用可能人数の合計は76人で、入学定員25人（予定）を大幅に上回る。

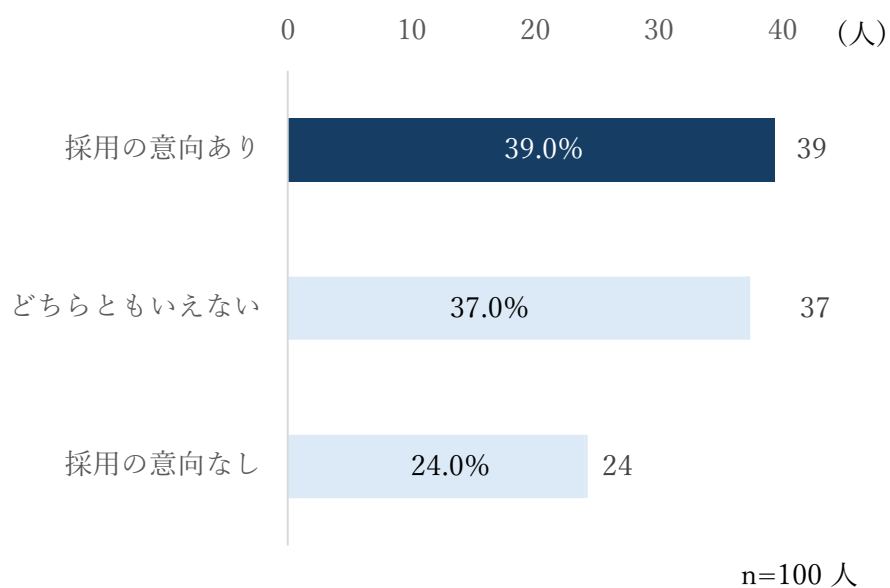


図 9 健康科学専攻（仮称）の修了生に対する採用意向
【データ】本調査 Q7 の集計結果を基に、筆者が加工作成。

※「採用の意向あり」＝採用したいと「非常に思う」と「思う」を合算。

※「採用の意向なし」＝採用したいと「思わない」と「全く思わない」を合算。

以下のグラフは、本調査 Q7 で「(採用したいと) 非常に思う」または「(採用したいと) 思う」を選択した 39 人を対象に、業種別に集計した結果である。

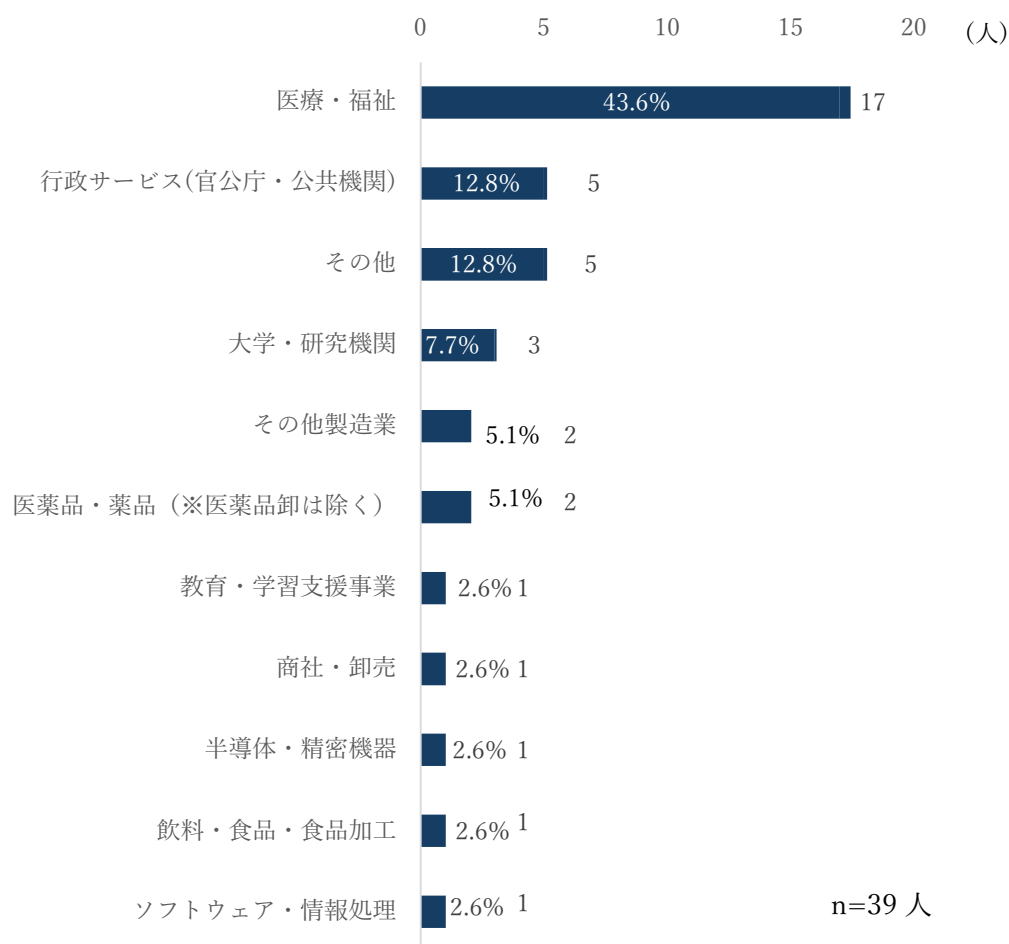


図 10 健康科学専攻(仮称)の修了生に対する採用意向(業種別)

【データ】本調査 Q7 で「非常に思う」または「思う」を選択した 39 人の回答を基に、筆者が業種別に加工・作成。

※グラフのデータは「非常に思う」と「思う」の数値を業種別に合算した値。

以下のグラフは、本調査 Q7 で「非常に思う」または「思う」を選択した 39 人のうち、Q8 で回答された「単年度に採用可能な人数（1～5）」の総計を示している。「わからない」を選択した 12 人は除外。

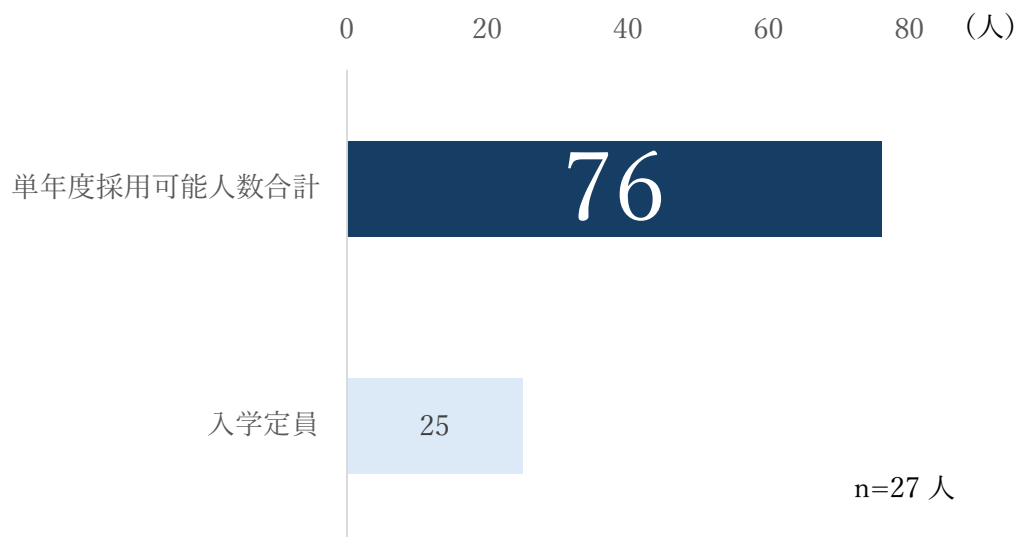


図 11 単年度の採用可能人数と入学定員（予定）

【データ】本調査 Q8 の集計結果を基に、筆者が加工・作成。

※グラフのデータは「単年度に採用可能な人数（1～5）」を総計した値。

※Q8 で「5 人以上」を選択した回答は、5 人として集計。

以下のグラフは、本調査 Q7 で「非常に思う」または「思う」を選択した 39 人のうち、Q8 で回答された「単年度に採用可能な人数（1～5）」を業種別に合計した結果である。「わからない」を選択した 12 人は除外。

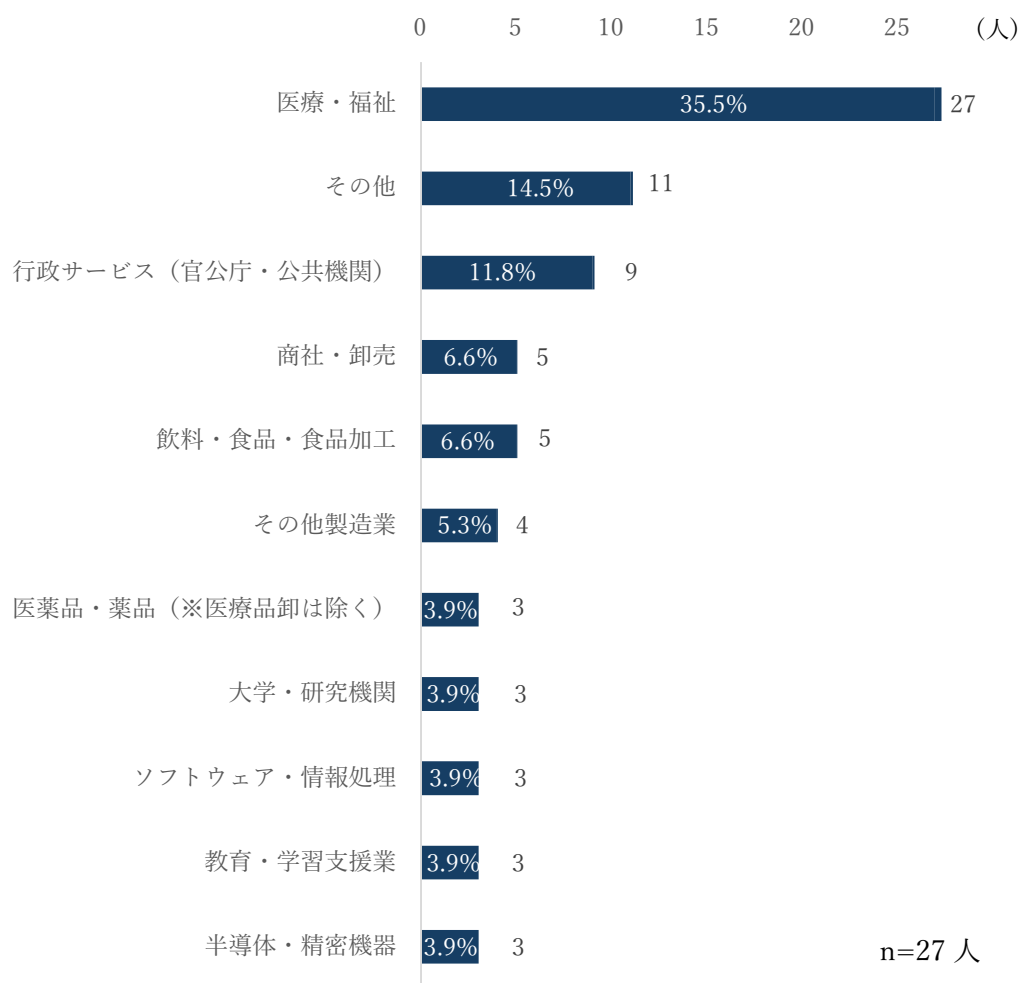


図 12 単年度の採用可能人数（業種別）

【データ】本調査 Q8 の集計結果を基に、筆者が業種別に加工・作成。

※グラフのデータは「単年度に採用可能な人数」を業種別に合計した値。

※Q8 で「5 人以上」を選択した回答は、5 人として集計。

第Ⅲ章 調査結果（単純集計表）

▶スクリーニング調査

SC1_あなたの性別をお答えください。（単一回答）

n=100	回答数	構成比（%）
男性	93	93.0
女性	7	7.0

SC2_あなたの年齢をお答えください。（数値入力）

n=100	年齢
平均値	55.1
最小値	25
最大値	77

SC3_あなたの現在の職業をお答えください。（単一回答）

n=100	回答数	構成比（%）
会社勤務（一般社員）	15	15.0
会社勤務（管理職）	29	29.0
会社経営（経営者・役員）	15	15.0
公務員・教職員・非営利団体職員	20	20.0
派遣社員・契約社員	0	0.0
自営業（商工サービス）	5	5.0
農林漁業	0	0.0
専門職（弁護士・税理士等の法務経営の専門職）	0	0.0
専門職（医師等の医療関連の専門職）	16	16.0
パート・アルバイト	0	0.0
その他の職業	0	0.0

n=100	回答数	構成比 (%)
専業主婦・主夫	0	0.0
学生	0	0.0
無職	0	0.0

SC4_あなたの業務に、人材採用に関わる業務は含まれていますか。(単一回答)

n=100	回答数	構成比 (%)
はい	500	100.0
いいえ	0	0.0

SC5_お勤め先の業種についてお答えください。(単一回答)

n=100	回答数	構成比 (%)
行政サービス（官公庁・公共機関）	15	15.0
大学・研究機関	5	5.0
教育・学習支援業	3	3.0
医療・福祉	46	46.0
医薬品・薬品（※医療品卸は除く）	4	4.0
医療品卸	0	0.0
商社・卸売	7	7.0
化粧品	0	0.0
トイレタリー	0	0.0
化学・石油化学	1	1.0
健康食品	0	0.0
飲料・食品・食品加工	1	1.0
医療機器	0	0.0
半導体・精密機器	2	2.0
コンピュータ・通信機器	0	0.0
その他製造業	7	7.0
通信	1	1.0
ソフトウェア・情報処理	2	2.0
その他情報サービス業	1	1.0

n=100	回答数	構成比 (%)
国際機関 (WHO、UNESCO等)	0	0.0
その他	5	5.0

▶本調査

Q1_お勤め先の所在地をお答えください。(単一回答)

n=100	回答数	構成比 (%)
北海道	8	8.0
青森県	0	0.0
岩手県	0	0.0
宮城県	5	5.0
秋田県	1	1.0
山形県	0	0.0
福島県	0	0.0
茨城県	0	0.0
栃木県	1	1.0
群馬県	0	0.0
埼玉県	3	3.0
千葉県	5	5.0
東京都	21	21.0
神奈川県	9	9.0
新潟県	0	0.0
富山県	0	0.0
石川県	0	0.0
福井県	0	0.0
山梨県	0	0.0
長野県	1	1.0
岐阜県	1	1.0
静岡県	4	4.0
愛知県	8	8.0
三重県	0	0.0
滋賀県	1	1.0
京都府	0	0.0
大阪府	10	10.0
兵庫県	1	1.0
奈良県	2	2.0

n=100	回答数	構成比 (%)
和歌山県	2	2.0
鳥取県	1	1.0
島根県	1	1.0
岡山県	1	1.0
広島県	2	2.0
山口県	0	0.0
徳島県	1	1.0
香川県	0	0.0
愛媛県	0	0.0
高知県	0	0.0
福岡県	6	6.0
佐賀県	1	1.0
長崎県	0	0.0
熊本県	2	2.0
大分県	0	0.0
宮崎県	0	0.0
鹿児島県	2	2.0
沖縄県	0	0.0

Q2_お勤め先の従業員数（正規社員数）をお答えください。（単一回答）

n=100	回答数	構成比 (%)
50人未満	38	38.0
50人～99人	12	12.0
100人～299人	17	17.0
300人～499人	3	3.0
500人～999人	9	9.0
1,000人～2,999人	7	7.0
3,000人～4,999人	5	5.0
5,000人以上	9	9.0

Q3_2026年度（令和8年）に設置構想中の神戸大学大学院「医学系研究科 未来社会医学専攻」（博士課程）（仮称）が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。（単一回答）

n=100	回答数	構成比（%）
ニーズは極めて高い	19	19.0
ニーズはある程度高い	33	33.0
どちらともいえない	32	32.0
ニーズはあまりない	7	7.0
ニーズはない	9	9.0

Q4_神戸大学大学院「医学系研究科 未来社会医学専攻」（博士課程）（仮称）を修了した学生を採用したいと思いますか。（単一回答）

n=100	回答数	構成比（%）
非常に思う	11	11.0
思う	27	27.0
どちらともいえない	40	40.0
思わない	10	10.0
全く思わない	12	12.0

Q5_神戸大学大学院「医学系研究科 未来社会医学専攻」（博士課程）（仮称）を修了した学生を、単年度で採用可能と思われる採用人数は何人ですか。（単一回答）

※Q4 で、「非常に思う」または「思う」を選択した回答者が対象。

n=38	回答数	構成比（%）
1人	7	18.4
2人	7	18.4
3人	5	13.2
4人	2	5.3
5人以上	5	13.2
わからない	12	31.6

Q6_2026年度（令和8年）に設置構想中の神戸大学大学院「医学系研究科 健康科学専攻」（博士課程）（仮称）が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。（単一回答）

n=100	回答数	構成比（％）
ニーズは極めて高い	17	17.0
ニーズはある程度高い	40	40.0
どちらともいえない	29	29.0
ニーズはあまりない	5	5.0
ニーズはない	9	9.0

Q7_神戸大学大学院「医学系研究科 健康科学専攻」（博士課程）（仮称）を修了した学生を採用したいと思いますか。（単一回答）

n=100	回答数	構成比（％）
非常に思う	13	13.0
思う	26	26.0
どちらともいえない	37	37.0
思わない	11	11.0
全く思わない	13	13.0

Q8_神戸大学大学院「医学系研究科 健康科学専攻」（博士課程）（仮称）を修了した学生を、単年度で採用可能と思われる採用人数は何人ですか。（単一回答）

※Q7 で、「非常に思う」または「思う」を選択した回答者が対象。

n=39	回答数	構成比（％）
1人	7	17.9
2人	5	12.8
3人	7	17.9
4人	2	5.1
5人以上	6	15.4
わからない	12	30.8

▶▶添付資料

▶概要説明リーフレット

・ 1/4



養成する人物像

専門知の深化と
総合知による課題解決

課題設定能力
勝ち筋の見極め

社会実装を可能とする
突破力

未来志向へのアプローチ

現代社会は、新型コロナウイルス等の感染症蔓延や気候変動、さらに生成 AI 等の技術革新により急速に変化しており、既存の価値観や知識だけでは新たに生じた課題に対応できません。

このような社会は「VUCA の時代」と呼ばれ、単独の専門分野の知識では解決が難しくなっています。

この大変革の時代における大学は、専門知を深めるだけでは不十分であり、あらゆる分野の知識を総合的に活用し、「総合知」を生み出す場となり、強力に推進することが求められています。

改編・新設専攻の 入学定員及び学位の種類

D 博士課程

[仮称]

未来社会医学専攻

5 名

博士（公衆衛生学）

公衆衛生の最前線で課題解決
保健・医療機器・健康関連企業で課題解決
グローバルな視点で健康政策策定
総合保健医療のあり方創造
国際的な公衆衛生課題の解決
新たな医療・保健システムのデザイン

[仮称]

健康科学専攻

25 名

博士（保健学）

健康科学に関する高度な分析力
健康を守る指導的役割
独自の・創造的に解決
国際的に普遍的な価値を持つ知識・技術を創造
医療保健福祉チームの一員として協働

M 修士課程

[仮称]

先進生命医科学系専攻 119 名

生命医学系の専門知を深掘り拡大し
総合知を活用する教育を実践

高い倫理観を備え

研究・開発・実践に係る専門知と総合知を
結合させた卓越した問題解決能力を持つ人材

[仮称]

未来社会 医学領域

修士（公衆衛生学）

公衆衛生上の課題を創造的に解決

他分野の人々と協働して
国内外の公衆衛生上の課題を解決

新たな医療・保健システムの
開発をデザイン

[仮称]

健康科学 領域

修士（保健学）

人々の健康を守るために
指導的役割を遂行

地域の各々に最も相応しい形で
健康科学上の課題解決策を提案・適用

医療創成 工学領域

修士（医工学）

臨床医学知識を有し現場ニーズの抽出

医療機器「概念」を創造・具現化
医療機器実用化に必要な知識を有し
成果を発信

BMS

領域

修士（バイオメディカルサイエンス）

生命科学・医学の探求心と
創造性を持つ課題力

深い学識と論理的思考、高度な専門力

▶アンケート調査票（WEB フォーム）

【スクリーニング調査票】

Page 1

SC1

あなたの性別をお答えください。

1 ☐ 男性

2 ☐ 女性

SC2

あなたの年齢をお答えください。

歳

次へ

SC3

あなたの現在の職業をお答えください。

- 1 ☐ 会社勤務(一般社員)
- 2 ☐ 会社勤務(管理職)
- 3 ☐ 会社経営(経営者・役員)
- 4 ☐ 公務員・教職員・非営利団体職員
- 5 ☐ 派遣社員・契約社員
- 6 ☐ 自営業(商工サービス)
- 7 ☐ 農林漁業
- 8 ☐ 専門職(弁護士・税理士等の法務経営の専門職)
- 9 ☐ 専門職(医師等の医療関連の専門職)
- 10 ☐ パート・アルバイト
- 11 ☐ その他の職業
- 12 ☐ 専業主婦・主夫
- 13 ☐ 学生
- 14 ☐ 無職

次へ

SC4

あなたの業務に、人材採用に関わる業務は含まれていますか。

- 1 ☐ はい
- 2 ☐ いいえ

次へ

SC5

お勤め先の業種についてお答えください。

※複数に当てはまる場合は、主たる業種についてお答えください。

- 1 ○ 行政サービス(官公庁・公共機関)
- 2 ○ 大学・研究機関
- 3 ○ 教育・学習支援業
- 4 ○ 医療・福祉
- 5 ○ 医薬品・薬品(※医療品卸は除く)
- 6 ○ 医療品卸
- 7 ○ 商社・卸売
- 8 ○ 化粧品
- 9 ○ トイレタリー
- 10 ○ 化学・石油化学
- 11 ○ 健康食品
- 12 ○ 飲料・食品・食品加工
- 13 ○ 医療機器
- 14 ○ 半導体・精密機器
- 15 ○ コンピュータ・通信機器
- 16 ○ その他製造業
- 17 ○ 通信
- 18 ○ ソフトウェア・情報処理
- 19 ○ その他情報サービス業
- 20 ○ 国際機関(WHO、UNESCO等)
- 21 ○ その他

次へ

【本調査票】

Page 1

神戸大学大学院 「未来社会医学専攻・健康科学専攻 博士課程」(仮称・設置構想中) 設置構想についての採用意向アンケート調査

神戸大学では、令和8年4月に医学研究科と保健学研究科を統合し「医学系研究科(仮称)」として改編し、「神戸大学大学院医学系研究科 未来社会医学専攻博士課程(仮称)」〈入学定員 5 名予定〉・「神戸大学大学院医学系研究科 健康科学専攻博士課程(仮称)」〈入学定員25 名予定〉の設置を構想しております。本学ではこのアンケート調査を通して、将来修了生の採用をご検討いただく皆様からご意見を賜り、広く社会に貢献できる人材輩出を行ってまいりたいと考えております。

なお、ご回答いただいた皆様から得られた情報は、神戸大学大学院医学系研究科未来社会医学専攻(仮称)・健康科学専攻博士課程(仮称)の設置に係る統計資料ならびに、文部科学省への提出書類の一部資料としてのみ活用いたします。アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・機関が識別できる情報として、公表されることはありません。

何卒ご協力のほど、謹んでお願い申し上げます。

※本アンケート調査は、神戸大学から委託された第 3 者機関・株式会社高等教育総合研究所が実施しています。

※本アンケート調査や関連する資料に記載されている神戸大学大学院医学系研究科未来社会医学専攻(仮称・設置構想中)・健康科学専攻博士課程(仮称・設置構想中)に関する事項はすべて予定であり、今後内容が変更になる可能性があります。

Q1

お勤め先の所在地をお答えください。

Q2

お勤め先の従業員数(正規社員数)をお答えください。

- 1 ☐ 50人未満
- 2 ☐ 50人～99人
- 3 ☐ 100人～299人
- 4 ☐ 300人～499人
- 5 ☐ 500人～999人
- 6 ☐ 1,000人～2,999人
- 7 ☐ 3,000人～4,999人
- 8 ☐ 5,000人以上

次へ

「神戸大学大学院「医学系研究科 未来社会医学専攻・健康科学専攻 博士課程(仮称・設置構想中)」概要書

神戸大学大学院「医学系研究科 未来社会医学専攻・健康科学専攻 博士課程(仮称・設置構想中)」概要書の内容をご確認の上、以降に続く設問にご回答ください。



養成する人物像

専門知の深化と
総合知による課題解決

課題設定能力
勝ち筋の見極め

社会実装を可能とする
突破力

未来志向へのアプローチ

現代社会は、新型コロナウイルス等の感染症蔓延や気候変動、さらに生成 AI 等の技術革新により急速に変化しており、既存の価値観や知識だけでは新たに生じた課題に対応できません。

このような社会は「VUCA の時代」と呼ばれ、単独の専門分野の知識では解決が難しくなっています。

この大変革の時代における大学は、専門知を深めるだけでは不十分であり、あらゆる分野の知識を総合的に活用し、「総合知」を生み出す場となり、強力に推進することが求められています。

改編・新設専攻の 入学定員及び学位の種類

D 博士課程

[仮称]

未来社会医学専攻

5 名

博士（公衆衛生学）

公衆衛生の最前線で課題解決
保健・医療機器・健康関連企業で課題解決
グローバルな視点で健康政策策定
総合保健医療のあり方創造
国際的な公衆衛生課題の解決
新たな医療・保健システムのデザイン

[仮称]

健康科学専攻

25 名

博士（保健学）

健康科学に関する高度な分析力
健康を守る指導的役割
独自の・創造的に解決
国際的に普遍的な価値を持つ知識・技術を創造
医療保健福祉チームの一員として協働

M 修士課程

[仮称]

先進生命医科学系専攻 119 名

生命医学系の専門知を深掘り拡大し
総合知を活用する教育を実践

高い倫理観を備え

研究・開発・実践に係る専門知と総合知を
結合させた卓越した問題解決能力を持つ人材

[仮称]

未来社会 医学領域

修士（公衆衛生学）

公衆衛生上の課題を創造的に解決
他分野の人々と協働して
国内外の公衆衛生上の課題を解決
新たな医療・保健システムの
開発をデザイン

[仮称]

健康科学 領域

修士（保健学）

人々の健康を守るために
指導的役割を遂行
地域の各々に最も相応しい形で
健康科学上の課題解決策を提案・適用

医療創成 工学領域

修士（医工学）

臨床医学知識を有し現場ニーズの抽出
医療機器「概念」を創造・具現化
医療機器実用化に必要な知識を有し
成果を発信

BMS 領域

修士（バイオメディカルサイエンス）

生命科学・医学の探求心と
創造性を持つ課題力
深い学識と論理的思考、高度な専門力

次へ

Q3

2026年度(令和8年)に設置構想中の神戸大学大学院「医学系研究科 未来社会医学専攻」(博士課程)(仮称)が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。

- 1 ☐ ニーズは極めて高い
- 2 ☐ ニーズはある程度高い
- 3 ☐ どちらともいえない
- 4 ☐ ニーズはあまりない
- 5 ☐ ニーズはない

Q4

神戸大学大学院「医学系研究科 未来社会医学専攻」(博士課程)(仮称)を修了した学生を採用したいと思いますか。

- 1 ☐ 非常に思う
- 2 ☐ 思う
- 3 ☐ どちらともいえない
- 4 ☐ 思わない
- 5 ☐ 全く思わない

次へ

Q5

神戸大学大学院「医学系研究科 未来社会医学専攻」(博士課程)(仮称)を修了した学生を、単年度で採用可能と思われる採用人数は何人ですか。

- 1 ☐ 1人
- 2 ☐ 2人
- 3 ☐ 3人
- 4 ☐ 4人
- 5 ☐ 5人以上
- 6 ☐ わからない

次へ

Q6

2026年度(令和8年)に設置構想中の神戸大学大学院「医学系研究科 健康科学専攻」(博士課程)(仮称)が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。

- 1 ☐ ニーズは極めて高い
- 2 ☐ ニーズはある程度高い
- 3 ☐ どちらともいえない
- 4 ☐ ニーズはあまりない
- 5 ☐ ニーズはない

Q7

神戸大学大学院「医学系研究科 健康科学専攻」(博士課程)(仮称)を修了した学生を採用したいと思いますか。

- 1 ☐ 非常に思う
- 2 ☐ 思う
- 3 ☐ どちらともいえない
- 4 ☐ 思わない
- 5 ☐ 全く思わない

次へ

Q8

神戸大学大学院「医学系研究科 健康科学専攻」(博士課程)(仮称)を修了した学生を、単年度で採用可能と思われる採用人数は何人ですか。

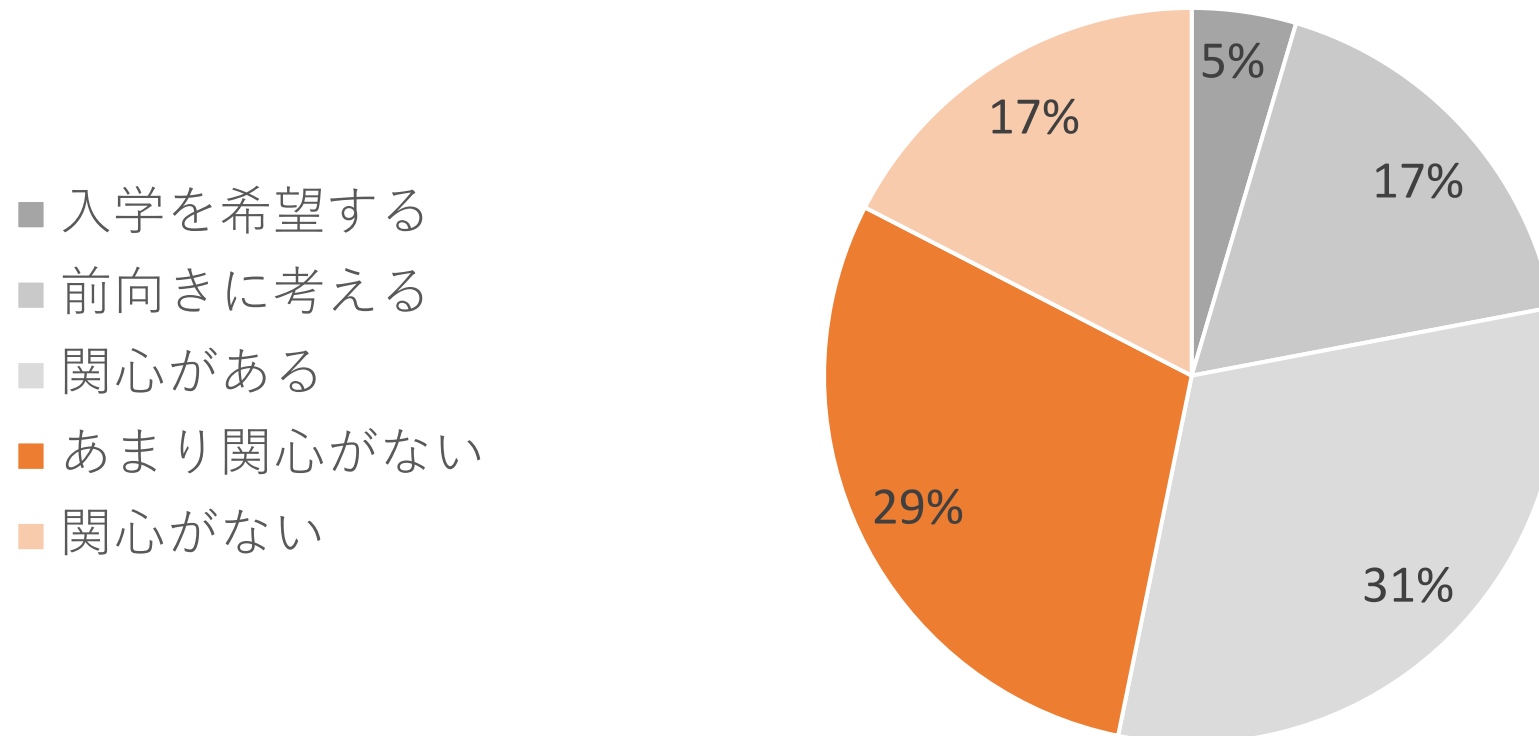
- 1 ☐ 1人
- 2 ☐ 2人
- 3 ☐ 3人
- 4 ☐ 4人
- 5 ☐ 5人以上
- 6 ☐ わからない

送信

公衆衛生博士課程 (未来社会医学専攻)

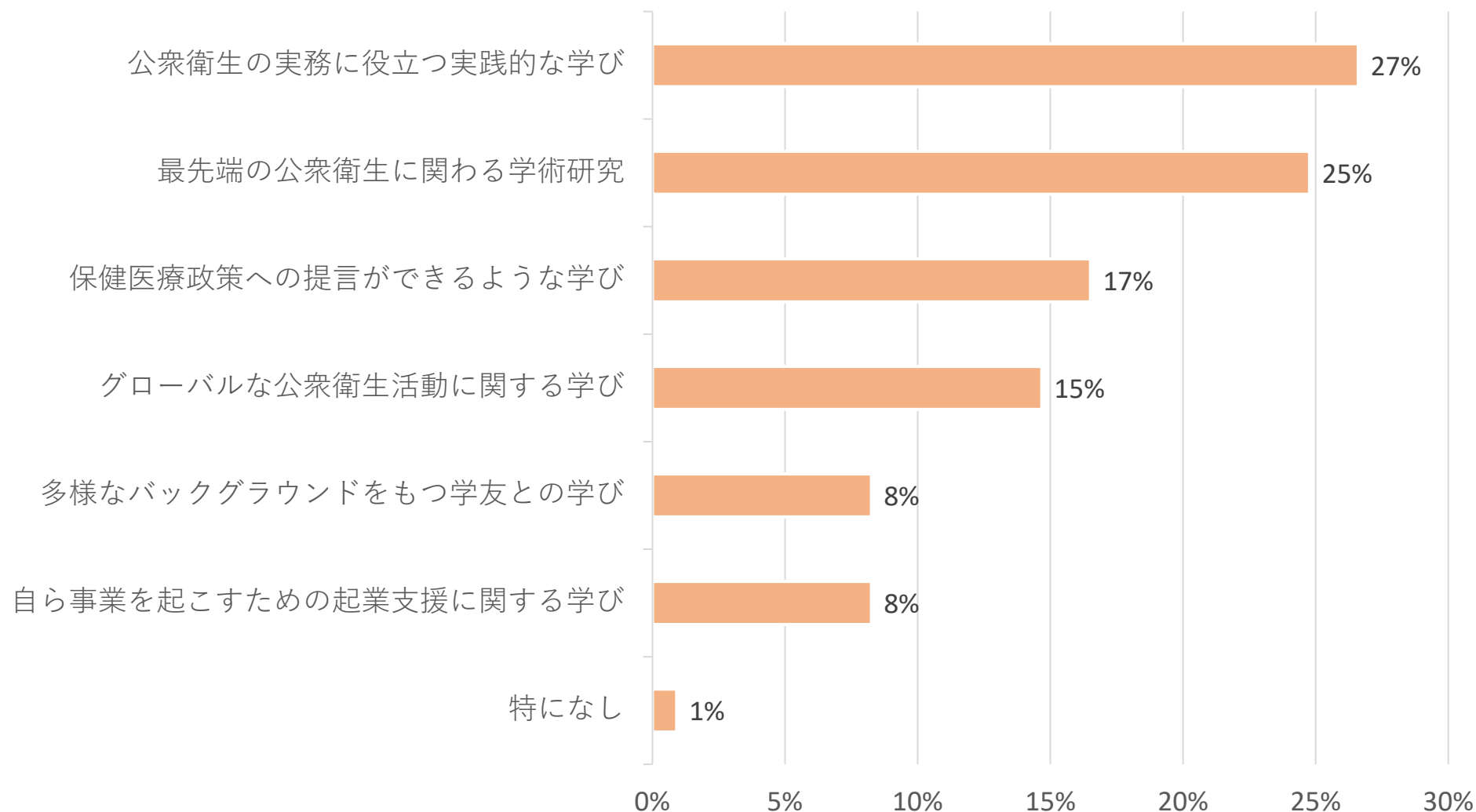
回答者数 109名

公衆衛生博士課程（未来社会医学専攻）への入学を
希望しますか？最もあてはまるものを一つ選んでく
ださい。(n = 109)



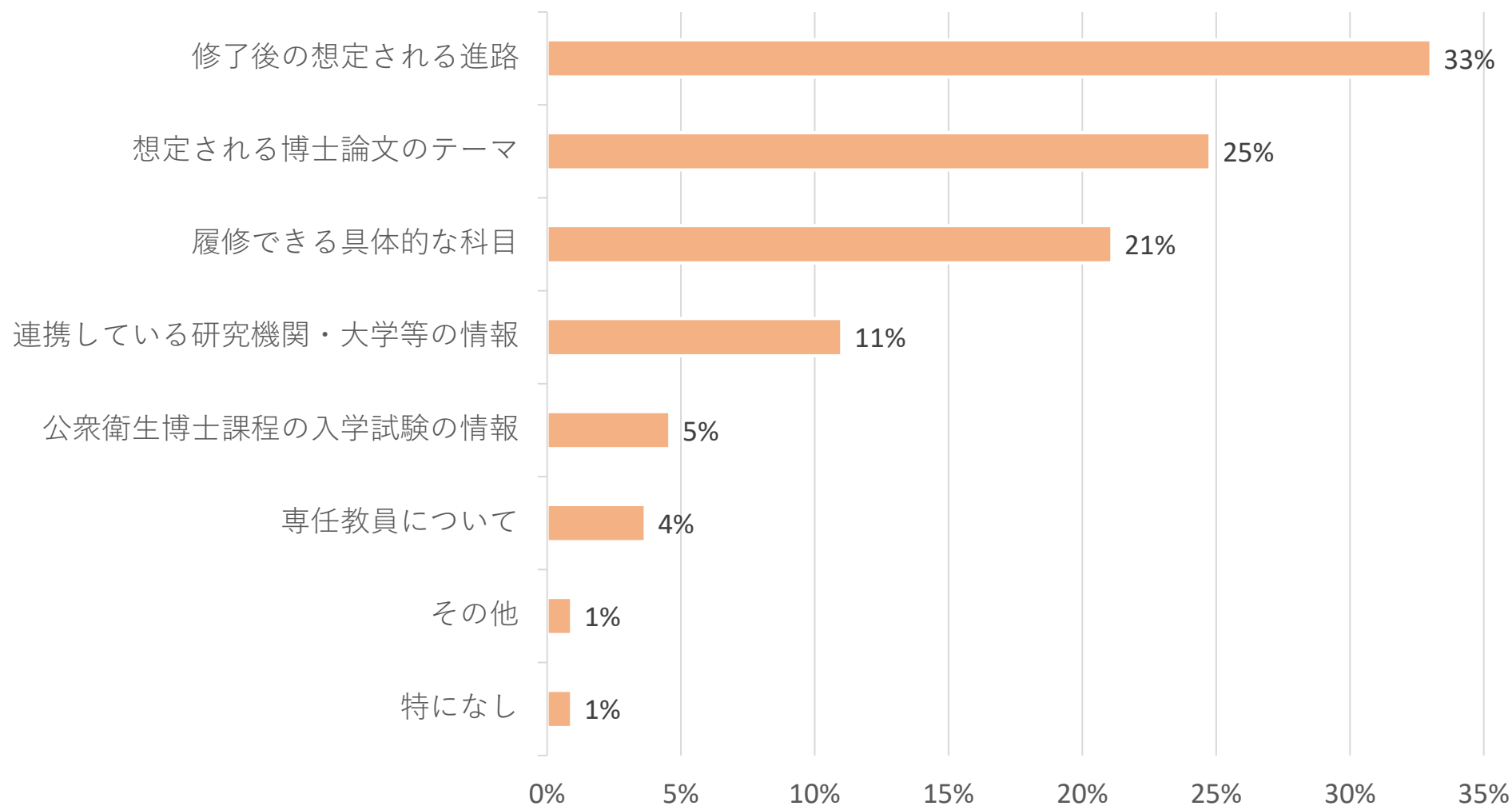
半数超の学生で入学・進学に前向きな者がみられた

公衆衛生博士課程（未来社会医学専攻）に対して、どのような学習体験を期待しますか？最もあてはまるものを一つ選んでください。(n=109)



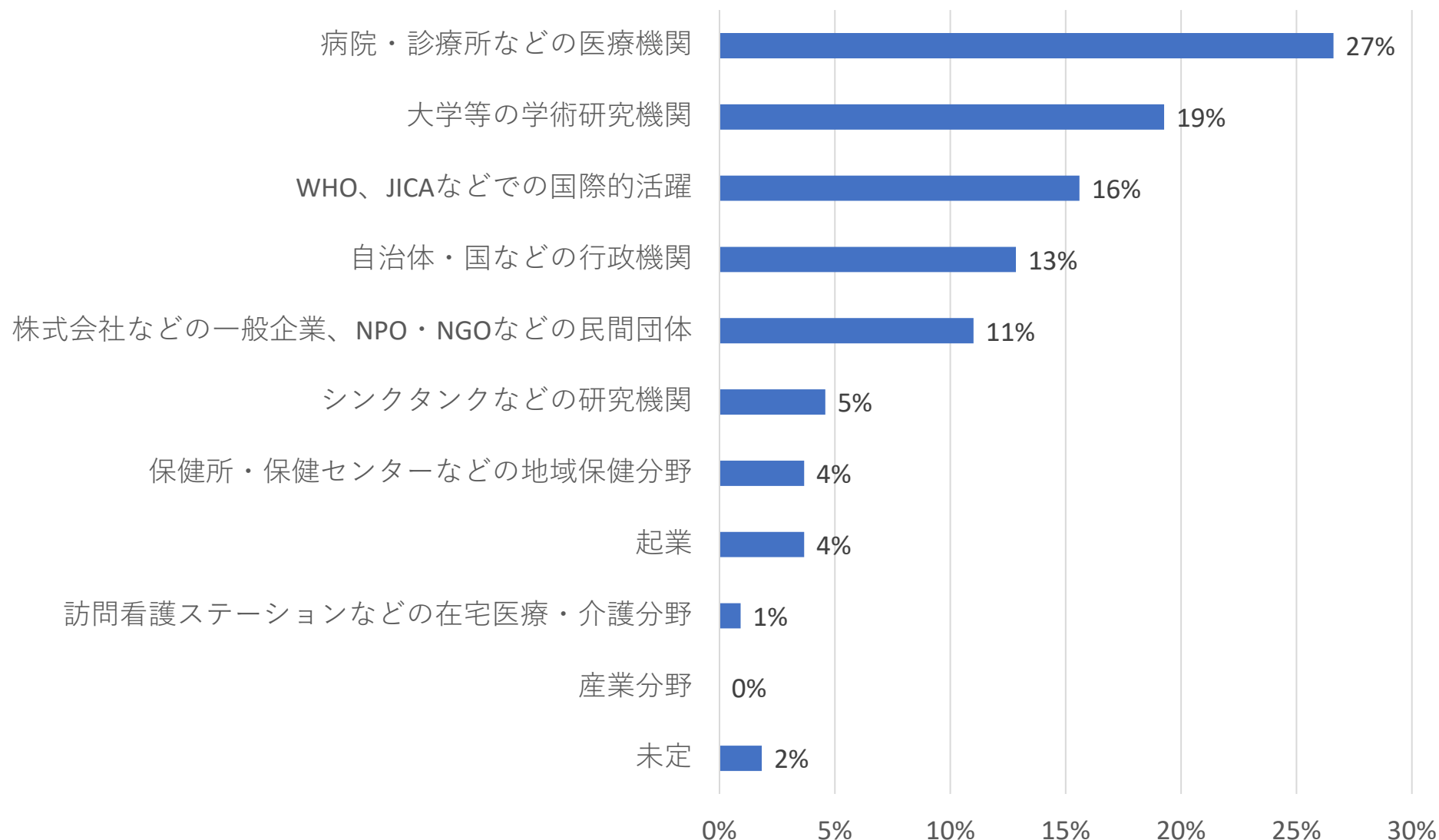
実践的な学び、最先端の学術研究に関する期待が高かった。

公衆衛生博士課程（未来社会医学専攻）について、どのような情報を更
に知りたいですか？最もあてはまるものを一つ選んでください。(n = 109)



修了後の進路に関する情報、想定される博士論文のテーマに関する情報へのニーズが高かった

修了後の進路としてどのような分野を希望していますか？最もあてはまるものを一つ選んでください。(n=109)



修了後の進路は医療機関、研究機関が多かった

在学生向け 公衆衛生大学院課程に関する調査

調査について

神戸大学大学院は、令和8年度から大学院課程に新しく公衆衛生を専門的に学ぶ専攻（修士課程として先進生命医科学系専攻、博士課程として未来社会医学専攻）の創設を検討しています。この専攻は、国際的に広く公衆衛生大学院課程に体系的な履修が必須とされている5領域、すなわち疫学（epidemiology）、生物統計学（biostatistics）、環境保健学（environmental health sciences）、社会科学・行動科学（social and behavioral sciences）、保健医療政策学（health services administration）をコア科目群として、体系的に公衆衛生について学ぶことができます。

世界では公衆衛生の実務家は修士課程において養成されており、医療従事者のみならず多様なバックグラウンドをもつ者が公衆衛生修士号（MPH）を得て活躍しています。構想中の修士課程（先進生命医科学系専攻）の修了者はMPHの称号を得ることができます。また、大学院博士課程（未来社会医学専攻）の修了者は、公衆衛生博士号（DPH）を取得することができます。新専攻の修了者は、大学・研究機関、医療機関、行政機関、保健業界、健康業界、医療機器業界、IT業界、教育業界、食品業界、製薬業界、国際機関（WHO、UNESCO など）で働いたり、公衆衛生の専門家として自ら事業を起こし活動したりしていくことが期待されています。

より良い大学院教育とするため、学生の皆さまの関心や興味、新専攻に対して期待すること等をお伺いしたいと思います。

つきましては、上記の趣旨をご理解いただき、本調査へご協力賜りますようお願い申し上げます。

回答期間：2024年8月31日 まで

<連絡事項>

- ・本調査への回答によって何らかの不利益を生じることはありません。
- ・無記名のため回答はお一人一回までとなるようお願いいたします。
- ・本調査で得られた情報は、新たな大学院の構想のためにのみ利用いたします。

在学生向け 公衆衛生大学院課程に関する調査

* 必須

回答者様についてお伺いいたします

1. ご所属を一つ選んでください。 *

- ☐ 医学部医学科
- ☐ 医学部保健学科
- ☐ 大学院医学研究科
- ☐ 大学院保健学研究科

在学生向け 公衆衛生大学院課程に関する調査

* 必須

以下は大学院生向けの質問です

大学院生の方にお伺いします。

2. 公衆衛生博士課程（未来社会医学専攻）への入学を希望しますか？最もあてはまるものを一つ選んでください。 *

☐ 入学を希望する

☐ 前向きに考える

☐ 関心がある

☐ あまり関心がない

☐ 関心がない

3. 公衆衛生博士課程（未来社会医学専攻）に対して、どのような学習体験を期待しますか？最もあてはまるものを一つ選んでください。 *

☐ 多様なバックグラウンドをもつ学友との学び

☐ 公衆衛生の実務に役立つ実践的な学び

☐ 最先端の公衆衛生に関わる学術研究

☐ グローバルな公衆衛生活動に関する学び

☐ 自ら事業を起こすための起業支援に関する学び

☐ 保健医療政策への提言ができるような学び

☐ その他

4. 公衆衛生博士課程（未来社会医学専攻）について、どのような情報を更に知りたいですか？最もあてはまるものを一つ選んでください。*

☐ 公衆衛生博士課程の入学試験の情報

☐ 履修できる具体的な科目

☐ 想定される博士論文のテーマ

☐ 専任教員について

☐ 修了後の想定される進路

☐ 連携している研究機関・大学等の情報

☐ その他

5. 修了後の進路としてどのような分野を希望していますか？最もあてはまるものを一つ選んでください。*

☐ 病院・診療所などの医療機関

☐ 保健所・保健センターなどの地域保健分野

☐ 訪問看護ステーションなどの在宅医療・介護分野

☐ 老人保健施設などの福祉分野

☐ 株式会社などの一般企業、NPO・NGOなどの民間団体

☐ 自治体・国などの行政機関

☐ WHO、JICAなどでの国際的活躍

☐ 大学等の学術研究機関

☐ シンクタンクなどの研究機関

☐ 起業

☐ その他